

1 年 表現文化学科

表現文化学科教育課程表(2026年度(令和8年)入学生)																			
区 分		科目	単 位			開 講 時 期						担当教員名	同時授業	卒必	司書	上級 秘書士	上級 秘書士 (メディカル秘書)	備 考	
			授業の方法	必修	選択	1年生			2年生										
						前	通	後	前	通	後								
教養科目	人間と文化	芸術に親しむ	講義		2	○						七字純子/長谷川裕久		△2				〔教養科目〕 卒業要件:14単位以上(必修含む) 「人間と文化」2単位以上 「人間と社会」必修を含め6単位以上 「生活と科学」2単位以上 「実務と情報」2単位以上 「外国語」2単位 ウィンドアンサンブル入門 (◇年間15回) ●科目 数理・データサイエンスAI教育プログラム 認定申請科目(2科目 4単位)	
		こども未来学	講義		2	○						こども学科教員		△2					
		ウィンドアンサンブル入門	演習		1		◇					八木澤香菜		△2					
	人間と社会	日本国憲法	講義		2	○						小口恵巳子		▲4					
		女性学	講義		2				○			小林和子/小口恵巳子		▲4					
		女性と社会生活	講義		2	○						辻京子		▲4		△16	△16		
		キャリア形成ゼミⅠ	演習	1			○					表現文化学科教員		○		○	○		
		キャリア形成ゼミⅡ	演習	1							○			○		○	○		
		生活と科学	生活と環境	講義		2	○						佐藤隆		※2				
	身体のしくみと働き	講義		2				○				安嶋隆		※2			△16		
	●データサイエンス入門	講義		2				○				助川公継		※2					
	実務と情報	●マルチメディア演習	演習		2	○						内桶真二		□2		△16	△16		
		プレゼンテーション入門	講義		2				○			塙雅文		□2					
	人間と健康	健康とスポーツ	講義		1			○				野沢恵子							
		実技			1														
	ダンス入門	実技		1	○							国府田はるか							
	外国語	英語Ⅰ-A	演習	1		○						内桶真二		○					
		英語Ⅰ-B	演習	1					○			内桶真二		○					
専門科目	基礎ゼミナール	『読む』ということⅠ	講義	2		○					小林和子		○		△16	△16	〔専門科目〕 卒業要件:48単位以上(必修含む) 【必修】○24単位 【選択】■22単位以上 「文学を学ぶ」 「文化とことば」 「作品を創る」 「表現力を磨く」 「情報社会と表現」 地域文化論(◇年間15回)		
		『読む』ということⅡ	講義	2				○			金子未佳		○						
		『書く』ということⅠ	講義	2		○					小野孝尚		○		△16	△16			
		『書く』ということⅡ	講義	2				○			小野孝尚		○						
		『話す聞く』ということ	講義	2		○					金子未佳		○		△16	△16			
	文学を学ぶ	日本語・日本文学の歴史	講義	2				○			小林和子		○						
		日本近代文学	講義		2					○		金子未佳		■22					
		古典の森へ	講義		2				○			石井純一		■22					
		漢文学	講義		2	○						小野春江	R8(2026):1,2年	■22					
	文化とことば	書物論1/4期	講義		1				○			金子未佳	R8(2026):1,2年	■22	△2				
		漫画の世界	講義		2	○						横井三步	R8(2026):1,2年	■22					
		地域文化論	講義	2			◇					表現文化学科教員/(塙 年3,4回)		○					
		映像の世界	講義		2								R9(2027):1,2年	■22					
		日本文化	講義		2	○						金子未佳		■22		△16		△16	
		子どもと読書	講義		2				○			小林和子		■22	○				
		生涯学習概論	講義		2						○		■22	○					
		表現を学ぶ	表現入門	講義	2		○					長谷川裕久		○					
	戯曲に親しむ	講義	2					○			長谷川裕久		○						
	身体表現基礎	講義	2					○			平松み紀		○						
	作品を創る	書道Ⅰ	演習		1	○						小野春江		■22					
		書道Ⅱ	演習		1				○			小野春江		■22	書道Ⅰ選択者				
		文芸創作(詩歌)	演習		1					○				■22					
		文芸創作(小説)	演習		1						○			■22					
	身体表現創作	演習		1					○				■22						
	表現力を磨く	日本語表現	講義		2				○					■22		△16		△16	
		プレゼンテーション演習	演習		2						○			■22					
		プロジェクト演習	演習		2						○			■22		○		△16	
	情報社会と表現	人間関係論	講義		2						○		R9(2027):1,2年	■22		△16		△16	
		図書館活動演習	演習		2					◎			R9(2027):1,2年	■22	△2	△16		△16	
		図書館概論	講義		2	○						金子未佳		■22	○				
		秘書学概論	講義		2	○						周藤亜矢子		■22		○		○	
	表現力集成	言語文化ゼミナールⅠ	演習		1					○				◆		△16		△16	
		言語文化ゼミナールⅡ	演習		1						○			◆					
		身体表現ゼミナールⅠ	演習		1					○				◇					
		身体表現ゼミナールⅡ	演習		1						○			◇					
		卒業研究	演習	4								○		○					
資格取得		科 目	単 位			開 講 時 期						担当教員名	同時授業		司書	上級 秘書士	上級 秘書士 (メディカル秘書)	備 考	
			授業の方法	必修	選択	1年生			2年生										
						前	通	後	前	通	後								
資格取得に関する専門科目	司書に関する科目	図書館制度・経営論	講義	2								○		R9(2027):1,2年		○			必修 ○22単位 選択 △2科目2単位以上 合計24単位以上
		図書館情報技術論	講義	2		○							吉村風	R8(2026):1,2年		○			
		図書館サービス概論	講義	2						○				R9(2027):1,2年		○			
		情報サービス論	講義	2					○				吉村風	R8(2026):1,2年		○			
		情報サービス演習	演習	2								◎		R9(2027):1,2年		○			
		図書館情報資源概論	講義	2						○				R9(2027):1,2年		○			
		情報資源組織論	講義	2		○							吉村風	R8(2026):1,2年		○			
		情報資源組織演習	演習	2								◎		R9(2027):1,2年		○			
		図書館基礎特論1/4期	講義		1				○				吉村風	R8(2026):1,2年		△2			
	上級秘書士に関する科目	秘書実務	演習	2		◎							周藤亜矢子				○	○	必修 ○10単位
		事務管理	講義		2							○		R9(2027):1,2年			△16	△16	選択 △16単位以上
		秘書実務演習	演習		2							◎		R9(2027):1,2年			○		合計26単位以上
	上級秘書士(メディカル)に関する科目	メディカル秘書概論	講義		2				○				周藤亜矢子	R8(2026):1,2年				○	必修 ○10単位
		メディカル秘書実務	演習		2				○				周藤亜矢子	R8(2026):1,2年				○	選択 △単位16以上
		診療報酬実務	演習		2				◎				大澤恵美	R8(2026):1,2年				△16	合計26単位以上

「地域文化論」→ 時間割なし(別計画) ◎ → 半期30回開講(週2コマ)

ナンバリング	31200		科目名	芸術に親しむ	
担当教員	七字純子/長谷川裕久				
年度	2023	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)	☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療)	

授業概要 この授業は「美術」について前半8回（七字担当）、「演劇」について後半8回（長谷川担当）のオムニバスになります。

1. 「美術」には、ときに難解と思われる表現もありますが、「なぜ」という素朴な疑問から「美術」との楽しい対話が始まります。この授業は「美術」をやさしく親しみのある言葉で紹介するとともに、名画の表現技法を迫体験する「美術入門」です。（七字）
2. 総合芸術である演劇がどのように生まれ、発展し、現代に受け継がれてきたかを映像資料や体験から学び、演劇表現の豊かさを通して、現代社会での芸術の役割を考察します。（長谷川）

- 到達目標
1. さまざまな美術作品について知ることができます。（七字）
 2. 美術作品の観かたや表現技法を学ぶことで、美術の理解を深めることができます。（七字）
 3. 自ら積極的に美術に親しみ、豊かな感性を育てることができます。（七字）
 4. 舞台作品を鑑賞し、自分の言葉で感想を述べられるようになります。（長谷川）
 5. 様々の資料を使って演劇行為の歴史や特性を説明することができます。（長谷川）

- 学位授与の方針
- 【表現文化学科】
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。
- 【こども学科】
- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 - ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 - ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 美術に親しむということ
- 02 なぜから始まる美術の楽しみ1 絵のなかの物語 / 絵のなかの人々
- 03 なぜから始まる美術の楽しみ2 印象派の画家たち / 光と色彩 / 点描を楽しむ
- 04 なぜから始まる美術の楽しみ3 写実からの解放 / キュビズム
- 05 なぜから始まる美術の楽しみ4 抽象表現 / シュルレアリスム / コラージュを楽しむ
- 06 なぜから始まる美術の楽しみ5 20世紀の美術 / 表現の多様性
- 07 なぜから始まる美術の楽しみ6 現代の美術 / 写真を楽しむ
- 08 絵本のなかの美術 いろいろな手法
まとめ あらためて美術に親しむことの意義を考える
- 09 演劇の黎明 言葉の獲得から生まれた芸術
- 10 ギリシア悲劇入門 演劇の発生と古代の表現
- 11 キリスト教下での演劇表現 禁欲と解放

第一回授業内レポート

12 日本の古典1 雅楽から猿楽へ 能楽の歴史

13 日本の古典2 踊りの系譜 歌舞伎誕生

第二回授業内レポート

14 オペラからミュージカル エンターテインメントの隆盛

15 宝塚歌劇団と劇団四季

16 日本の現代演劇 新劇から2・5次元まで

第三回授業内レポート

授業時間 【事前学修】

外の学修 常に、美術に関心をもち、気に入ったアーティストや作品について調べておく。(七字)

授業前に提示した戯曲、参考書などはそれぞれが読んでおくこと。また、劇場やインターネット、DVDなどで積極的に舞台表現に触れること。時間外学習の目安は2時間程度とする。(長谷川)

【事後学修】

日頃から、美術館や博物館、ギャラリーなどを活用して、美術に触れる機会をつくる。(七字)

授業中に配布した資料等を読み返し、整理保存しておくこと。また、授業で紹介した映像資料などは積極的に鑑賞すること。時間外学習の目安は1時間程度とする。(長谷川)

評価方法 授業への取り組み(40%)、ワークシートの提出(30%)、実技課題・授業内レポートの提出(30%) (七字・長谷川)

アクティブラーニング グループワーク グループディスカッション 映像活用学習 ミニツツペーパー

フィードバック 各課題については、全体で鑑賞会及び講評会を行います。(七字)
授業内レポートについて、全体でのフィードバックを行う。(長谷川)
ミニツツペーパーについて、提出された質問を全体で講評する。(長谷川)

実務経験 ○ 高等学校(美術科)や専門学校(ビジュアルデザイン科)、美術館(美術教育普及課)での実務経験を活かし、さまざまなアプローチから「美術の楽しみ方」を提案する。(七字)
公共劇場での作劇、演出、俳優、制作等の経験を踏まえ、舞台芸術の歴史、制作過程、ジャンル毎の解説を具体的に解説する。(長谷川)

教科書 なし(七字・長谷川)

参考書 適時紹介する(七字・長谷川)

備考 4~5名のグループでディスカッション及び作業を行います。技法体験をする回は、材料や用具を忘れずに持参してください。(七字)

授業終わりにミニツツペーパー(コメント、質問等)を回収する。質問事項には次時間に回答する。時間内レポートはノートの持ち込みを可とするので各自ノートを整理しておくこと。(長谷川)

ナンバリング	31200	31221	科目名	こども未来学	
担当教員	佐藤/助川/小口/安藤/加茂川/馬立/国府田/森井/白土/八木澤				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 子ども一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を育成していくためには、まず、子どもを取り巻く現状や課題を理解することが大切です。授業では、多様な視点から子供たちの生き方に影響するトピックを取り上げ考察することを通して、子どもの文化を理解することや子どもとどのように関わっていけばよいかなど、広く乳幼児期から学童期、思春期という連続した流れの中で、社会の要請に応えることのできる質の高い保育者養成をねらいとしています。

到達目標

(1)子どもを取り巻く環境を、多様な視点から捉え、考察することを通して、未来に生きる子ども像をイメージできます。

(2)子どもの未来と幸せを考えられる保育者像を考察するとともに、自ら目指す姿を明らかにすることができます。

(3)現代の子どもを取り巻く課題を考え、解決するための方策について考えることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 こども未来学へようこそ～オリエンテーション～
- 02 I T C環境について考える
- 03 リトミックって
- 04 子どもの視点からみたSDGs
- 05 これからの親子関係に求められるもの
- 06 子どもとダンス
- 07 子どもの遊びの変遷
- 08 子どもが生きる社会
- 09 里親について
- 10 発達障害ってなあに
- 11 子どもと絵本

- 12 子どもの居場所
- 13 子育て支援について
- 14 赤ちゃんと音楽
- 15 子どもの未来

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次回の授業内容を確認し、課題内容に関する情報を収集しておくようにしてください。（2時間）

【事後学修】

自らの興味関心に基づいて、授業内容に関することを調べたりまとめたりしてください。（2時間）

評価方法 (1)授業への取り組み(50%) (2)レポート等の提出物(50%)
 課題レポートの評価基準
 1. 決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%）
 2. 求められている課題に内容が即しているか（20%）
 3. 指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%）
 4. 課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）

アクティブ ラーニング グループワーク、グループディスカッション、映像活用学習

フィードバック ・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験

教科書 なし（授業で使用する資料については、すべて配布します）

参考書 授業の中で紹介します。

備考 子どもを取り巻く環境を、多様な視点から捉えるために、様々な資料を準備したり、ゲストを迎えたり、体験したりするなど授業形態を工夫しながら進めます。

ナンバリング	31200	31221	科目名	こども未来学	
担当教員	佐藤/助川/小口/安藤/加茂川/馬立/国府田/森井/白土/八木澤				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 子ども一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を育成していくためには、まず、子どもを取り巻く現状や課題を理解することが大切です。授業では、多様な視点から子供たちの生き方に影響するトピックを取り上げ考察することを通して、子どもの文化を理解することや子どもとどのように関わっていけばよいかなど、広く乳幼児期から学童期、思春期という連続した流れの中で、社会の要請に応えることのできる質の高い保育者養成をねらいとしています。

到達目標

- (1)子どもを取り巻く環境を、多様な視点から捉え、考察することを通して、未来に生きる子ども像をイメージできます。
- (2)子どもの未来と幸せを考えられる保育者像を考察するとともに、自ら目指す姿を明らかにすることができます。
- (3)現代の子どもを取り巻く課題を考え、解決するための方策について考えることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 こども未来学へようこそ～オリエンテーション～
- 02 リトミックって
- 03 ICT環境について考える
- 04 子どもの視点からみたSDGs
- 05 これからの親子関係に求められるもの
- 06 子どもとダンス・身体表現
- 07 社会環境と子どもの問題
- 08 子どもの遊びの変遷
- 09 子どもと社会教育
- 10 発達障害ってなあに
- 11 子育て支援について

- 12 子どもの居場所
- 13 子どもと絵本
- 14 里親について
- 15 あかちゃんと音楽

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次回の授業内容を確認し、課題内容に関する情報を収集しておくようにしてください。（2時間）

【事後学修】

自らの興味関心に基づいて、授業内容に関することを調べたりまとめたりしてください。（2時間）

評価方法 (1)授業への取り組み(50%) (2)レポート等の提出物(50%)
 課題レポートの評価基準
 1. 決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%）
 2. 求められている課題に内容が即しているか（20%）
 3. 指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%）
 4. 課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）

アクティブ ラーニング グループワーク、グループディスカッション、映像活用学習

フィードバック ・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験

教科書 なし（授業で使用する資料については、すべて配布します）

参考書 授業の中で紹介します。

備考 子どもを取り巻く環境を、多様な視点から捉えるために、様々な資料を準備したり、ゲストを迎えたり、体験したりするなど授業形態を工夫しながら進めます。

ナンバリング	33200		科目名	ウィンドアンサンブル入門		
担当教員	八木澤 香菜					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年		単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 (1)合奏 (吹奏楽、アンサンブル) を通して、他者と一緒に演奏する楽しさを味わい、同時に表現力やコミュニケーション力を身につけます。
 (2)音楽の基礎知識を学ぶことで、管楽器、打楽器の演奏方法を具体的に身につけることができます。
 (3)様々な作曲家の音楽を鑑賞し、各時代の音楽様式や作曲家の特徴を学びます。

到達目標 (1)学生同士で考え、表現し合うことを通してコミュニケーション力を養うことができます。
 (2)音楽の基礎知識から、楽器の演奏法を身につけることができます。
 (3)資料を用いて、音楽の歴史や作曲家の特徴について説明することができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (1)授業計画について (2)音楽の基礎知識
- 02 音楽絵本 (1)絵本の決定 (2)パートの決定
- 03 音楽絵本 (1)セクション練習 (2)パート練習
- 04 音楽絵本 (1)全体練習
- 05 音楽絵本 (1)発表「なでしこコンサート」
- 06 音楽絵本 (1)振り返り (グループディスカッション) (2)音楽の歴史・鑑賞
- 07 アンサンブル (1)グループの決定 (2)楽曲の決定
- 08 アンサンブル (1)楽曲分析 (2)パート練習
- 09 アンサンブル (1)ハーモニー練習
- 10 アンサンブル (1)発表「なでしこコンサート」
- 11 アンサンブル (1)振り返り (グループディスカッション) (2)様々な音楽様式
- 12 吹奏楽 (1)ロングトーン (2)スケール (3)全体合奏
- 13 吹奏楽 (1)セクション練習 (2)パート練習

14 吹奏楽 (1)全体練習

15 吹奏楽 (1)発表「なでしこコンサート」

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業で配布した楽譜によく目を通して練習しておいてください。譜面上のわからない音楽用語は辞書で調べておいてください。（事前学習の目安は約1時間とする）

【事後学修】

授業内で指摘された箇所が改善されるようによく練習してください。授業内での演奏について友達同士でどのように演奏すべきか話し合ってください。（事後学習の目安は約1時間とする）

評価方法 授業への取り組み50% 発表30% 提出物20%

アクティブ ラーニング グループディスカッション

フィードバック リアクションペーパーは、コメントをつけて返却します。
演奏は、発表時に助言指導します。

実務経験 ○ 吹奏楽部顧問の経験、器楽に関する専門知識を生かし、様々な音楽様式、基礎知識、演奏法について具体例を踏まえた講義を行います。

教科書 なし

参考書 テーマに応じて参考文献、参考資料を配布します。

備考 個人楽器を所有している人は、持参してください。マウスピース、リード、楽器のメンテナンス用具は個人で用意してください。（学校の楽器を使用する場合も同様）
※年間を通じて15回実施

ナンバリング	31200	31211	科目名	日本国憲法		
担当教員	小口 恵巳子					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 学校におけるいじめや体罰問題、実親による児童虐待などが、連日のように社会問題化し報道されています。また、犯罪の低年齢化・短絡化の中で加害者としての未成年も注目されています。子どもたちをめぐるこのような諸問題を、「子どもの人権」をキーワードに、特に教育現場と関連付けながら検討していくことを通して、我が国の最高法規である日本国憲法の基本構造、全体像および具体像について、理解を深めます。そのうえで、各章の課題に関して、議論し合いながら、憲法が身近なものとして受け止められるようにします。

到達目標 次の2点を身につけることを通して、法的なものの考え方を習得するとともに、なぜ憲法を学ぶ必要があるのか、主権者としてどのように行動すべきかを主体的に考えることができるようになります。

- ・ 近代憲法の歴史と基本原理を理解する。
- ・ 人権の保障とその限界について理解する。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 憲法の意味について
- 02 憲法の成立と特徴、基本原理について
- 03 人として生まれながらにもちうる権利
- 04 立憲主義の歴史：個人の尊重と幸せに生きる権利
- 05 法の下での平等
- 06 思想・良心の自由
- 07 信教の自由
- 08 自由に学ぶ権利
- 09 自由に表現する権利
- 10 不安なく生きる権利
- 11 教育を受ける権利と義務
- 12 労働者の権利

- 13 国を治める仕組み（1）明治憲法
- 14 国を治める仕組み（2）現行憲法
- 15 憲法的な人権尊重についてまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 事前に教科書の該当範囲を一読し、疑問点をまとめる。人権問題にかかわる新聞記事を切り抜きノートに貼ってまとめる。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

授業内容をノートにまとめなおす。授業中に理解できなかった語句や興味を持った事柄について調べる。学修の目安は約2時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み（40%）、定期試験（60%）

アクティブ ラーニング 映像活用学習 ケースメソッド

フィードバック 提出物には、評価及びコメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 検察庁で勤務していた経験を活かし、人権の保障とその限界について、基本的な法的知識を身に付けられるように授業を行う。

教科書 『保育と日本国憲法』（株）みらい

参考書 なし

備考 人権意識を身に着けるために、課題について積極的に周囲と議論しあう、主体的な学習態度（自分の頭で考える）を求めます。
筆記試験（小テスト）について、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング		32200	32121	科目名	女性学	
担当教員		小林和子/小口恵巳子				
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒)	資格関連	☐ 必修 (幼)	☐ 必修 (司)	☐ 選択必修 (保)	☐ 選択 (上秘)
	☐ 選択必修 (卒)		☐ 必修 (保)	☐ 必修 (上秘)	☐ 選択 (幼)	☐ 選択 (上秘メ)
	☒ 選択 (卒)		☐ 必修 (音療)	☐ 必修 (上秘メ)	☐ 選択 (保)	☐ 選択 (音療)
	☐ 選択		☐ 必修 (准)	☐ 選択必修 (幼)	☐ 選択 (司)	

授業概要 男女が互いに助け合って明るい日本の未来を築くためには、現代における男女の関係を見つめ直し、それぞれが自立した人として互いを尊重し高め合うことがまず必要です。そして地域社会の中で女性が自分らしい生き方を見つけることのために、まず、ジェンダー、フェミニズムなどの用語の意味や、日本における女性史の概略を学び、女性を取り巻く国際的な問題なども視野にいて、メディアにおける女性問題を考えていきます。現代日本社会のジェンダー問題をメディアの中に学生たち自身が発見し、グループに分かれてディスカッションを行い、考察の共有と深化を図ります。後半は、ジェンダーの視点から、歴史的現象を考察することを通して、今日、「当たり前」として広まっている「常識」を疑う眼差しを持てるにすることを目指します。

到達目標 (1)視覚教材を通じて、女性としての生き方の問題を楽しく学んでいくことができます。(2)社会人としての責任感を持ち、豊かな人間性を育み、他者と協和できる力を養うことができます。(3)国際的にも視野を広げ、女性としての理想の生き方や現代社会の中でのこれからの女性の役割について考えることができます。(4)LGBTQなど多様化する性に対する正しい認識を持ち、基本的な女性学用語の意味や女性史の概略を理解し、現代社会における女性問題を自ら考える基礎力を養うことができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- (1)ガイダンス (2) 今までの生活の中で女性として生まれて得したと感じたこと、損したと感じたことなどについてのアンケート調査(3)高校までに学んだ女性学について確認。
- 大成学園の建学精神と女性学—女性保育者のパイオニアであり、大成女学校の校長として女子教育に大きな足跡を残した豊田ふゆ氏のことにについて学ぶ。
- 映画「赤毛のアン」の鑑賞—男女差別のあった時代に孤児であり自分の容姿にコンプレックスを持つ少女アンが周囲の人たちの愛情の中で成長する姿から、本当の家族とは何か、真の友情とは何か、互いが支えあえる真の恋とは何か等を考える。
- 女性の幸せは何なのか—シンデレラは本当に幸せなのか？シンデレラ・コンプレックス（白馬の騎士願望）について考える。（映画「プリティウーマン」等を参考に）
- キャリアウーマンと専業主婦、どちらが自分に合っているのか、女性の結婚、妊娠、出産適齢期について学ぶ。
- 子育てとキャリアの両立、保育園の必要性、男性の育児休暇取得の問題、離婚率の増加と親権、母親の幸せと子供の幸せ等について考える（映画「クレイマー、クレイマー」等を参考に）

- 07 基本的な女性史を学び、日本文学の中の女性像の変化を知る～あなたは紫式部派、それとも清少納言派？～
- 08 漫画やアニメ、テレビドラマやCM、女性アイドルの変遷などを考察し、メディアの中の女性像の変化を学生自らが検証する。
- 09 人権宣言と女権宣言
フランス人権宣言と同時期に男女平等を訴えるために、女権宣言が出された。その意味を、フェミニズムの第一波と第二波も含め学ぶ。
- 10 近代家族の成立と家族規範
19世紀、文明社会の指標の一つとされた「一夫一婦」とその実子とからなる家族（近代家族）が、その後の女性の生き方に何をもたらしたのかについて学ぶ。
- 11 同性愛文化の日本と同性愛禁忌の西欧
かつて日本は同性愛文化が花開いていた。いつ・いかなる理由で今日のような同性愛禁忌の西欧的社会が構築されてしまったのかを通して他者を認めることの重要性について考える。
- 12 近代教育制度の成立
明治期に確立された近代教育制度とはどのような目的をもったものであったのか。日本初の海外留学生として渡米した津田梅子の生き方を通して、女性が学ぶことの意義と重要性を学ぶ。
- 13 明治民法の中の女性
「家」制度における女性の立場を学び、特に家・家名の継承が現代社会においても深く影響を及ぼしていることを「夫婦別姓問題」を通して、これからの女性の生き方を考える。
- 14 婦人参政権の成立
市川房江がなぜ婦選運動を展開したのか、その背景要因を学ぶことを通して、今日、男女の別なくが政治的権利が保障されていることの意義を考える。
- 15 まとめと確認テスト

授業時間 【事前学修】

外の学修 新聞やインターネットやテレビなどのメディアの中に、女性学的問題に関連するニュースや話題を日頃からチェックして、ノートにまとめておきます。2時間を目安とします。

【事後学修】

授業内で配布した新聞記事やプリントなどについて復習します。また授業内で見た映画やディスカッション内容についてまとめます。ジェンダーについての現代社会のメディアの中で問題点を発見します。最低2時間を必要とします。

評価方法 授業への取り組み(40%)、課題レポート (30%)、確認テスト (30%)
授業への取り組み：ディスカッションやリアクションペーパーの内容について。課題レポート：女性学テーマを自らの身近なメディアにきちんと発見できているかどうか。

アクティブ
ラーニング グループディスカッション、リアクションペーパー

フィード
バック リアクションペーパーに対して個別のフィードバックを行います。ジェンダーなどについての確認テストを行いフィードバックを行います。

実務経験

教科書 なし（プリントを配布します）

参考書 なし（授業中に適宜紹介します）

備考 グループディスカッションを取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。他のメンバーの意見を聴き、自分の考えをしっかりと発言することを求めます。

ナンバリング	31242	31200	科目名	女性と社会生活	
担当教員	辻 京子				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 社会人として職業上必要となる基礎力を、学習を通して身に付ける。ねらいは次の2点。

- (1)基本的な社会の常識を理解し、活用できる。
- (2)社会生活における多様な考え方やスキルを理解し、活用できる。

到達目標 (1)社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
(2)行動には意味づけがあることを理解することにより、行動をより深いものにする。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション・「あなたにとって仕事とは」
- 02 社会人基礎力と仕事の進め方
- 03 第一印象と基本動作
- 04 話し方と聞き方
- 05 敬語・接遇用語
- 06 電話応対
- 07 ダイバーシティとコミュニケーション
- 08 冠婚葬祭の交際知識 (慶事)
- 09 冠婚葬祭の交際知識 (弔事)
- 10 来客応対の基本と心得
- 11 ホスピタリティー (おもてなしの心)
- 12 ビジネス文書の形式と演習
- 13 自身の強みと弱み
- 14 キャリアプラン
- 15 女性と社会と私の未来

授業時間	【事前学修】
外の学修	(1)予習として次回の授業内容を確認する(毎回1時間) (2)気になるニュースを書く(毎回1時間)
	【事後学修】
	(1)授業内で理解できなかった事項の復習(毎回1時間) (2)レポート課題(3回、5時間×3)
評価方法	定期試験は実施しない。授業への積極的参加(50%)、グループへの貢献度(20%)、レポート(30%)を総合的に評価する。出席時数の割合が3分の2に満たない者は評価の対象とならない。 レポートの評価基準 1.字数・行数等の形式、提出期限を守ることができる(10%) 2.誤字脱字がなく、記述表現が適切である(10%) 3.内容が適切である(30%) 4.論理的である(20%) 5.深い考察である(30%)
アクティブ ラーニング	グループ・ワーク、ペア・ワーク
フィード バック	レポートについて、全体または個別講評でフィードバック
実務経験	○ 企業での秘書業務経験を活かし、社会生活に必要なマナーについて、講義を行う。
教科書	『新ビジネスとオフィスワーク』水原道子監修 宮田篤編著 樹村房
参考書	なし
備考	

ナンバリング	13141		科目名	キャリア形成ゼミI	
担当教員	表現文化学科教員				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☒ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☒ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 本科目は大きく2つの内容について学びます。
 ①短大で実施される行事に参加することで集団生活の基本を学びます。
 ②短期大学で学んだことは、卒業後の進路だけでなく、日常生活にも大きく影響していきます。連綿と続いていく人生の様相を「キャリア」と言います。自分のキャリアを考えていきます。

到達目標 【学内行事を通して】短大での集団生活の基本が身につきます。
 【キャリア・ガイダンスを通して】自らの学生生活および卒業のキャリアデザインを描けます。

学位授与の方針【表現文化学科】

- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 入学時オリエンテーション、定期健診、グループ別オリエンテーション
- 02 新入生歓迎会（学友会主催：全学合同）
- 03 交通安全セミナー（1年生合同）
- 04 短大での過ごし方・履修登録確認
- 05 学科別研修会（全学科合同 劇団四季ミュージカル鑑賞会）
- 06 防火避難訓練（全学合同）
- 07 防犯講習会（全学合同）
- 08 グループ交流会（全学科合同 宝塚歌劇鑑賞会）
- 09 撫子祭事前準備（全学科合同）
- 10 撫子祭（全学合同）
- 11 漢検
- 12 健康・暮らしに関するセミナー
- 13 就職セミナー
- 14 就職セミナー

授業時間 【事前学修】

外の学修 キャリアについて考える回および講話等で事前学修を求めることがあります。

【事後学修】

課題を求めることがあります。全体で15時間以上の事後学修時間が必要となります。特に本科目は一人で行う組む独習だけでなく、他の学生・教職員とともに協働して進める課題も多くあります。協働してより互いに効果を得られる学習に努めてください。

全体で15時間以上の授業外学修時間を要します。

評価方法 授業への取り組み、課題への取り組み、振り返りフォーム（100%）

アクティブラーニング ワークショップ、外部講師による講話、セルフプランニング、振り返りフォーム

フィードバック 教員からの口頭および紙面によるフィードバック 対面あるいはオンラインによる面談、相談

実務経験

教科書

参考書

備考

- ・ 演習科目です。全回出席してください。
- ・ やむなく欠席する際は、事前に担当教員に連絡してください。
- ・ 外部講師講話などは講師の都合によって日時が変更になることがあります。その場合は確定次第授業時間変更の告知を行います。
- ・ 人の数だけ進路もあります。自身の将来のことで気になることがあったら、どんな小さなことでも担任や学科教員、進路相談室、学生カウンセリング担当者相談してください。

ナンバリング	31200		科目名	生活と環境	
担当教員	佐藤 隆				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 科学技術の発展により、私たちの生活は物質的に豊かで便利になりました。しかし、資源やエネルギーの膨大な消費とともに排出される二酸化炭素等の温室効果ガスによる温暖化、化学物質による環境汚染などの問題が深刻化しています。授業では、環境についての基礎的事項から出発して地球全体の環境にかかわる諸現象を幅広く探究します。またワークショップなどにより環境保全や持続可能な社会づくりについて具体的な手立てを意見交換し、社会における市民として何をすべきか、考えを深め広げます。

到達目標 身近なところから地球全体に至るまで環境問題に目を向け、原因や現状について理解することができます。未来を担う人材として、環境にかかわる問題を解決する方法について考える力を身につけることができます。世界的な視野に立って、持続可能な社会づくりのため、どのように生活していくべきか、自分たちにできることは何かを考え、実践する力を身に付けることができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☒ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 環境とは～オリエンテーション～
- 02 食と環境
- 03 水と環境
- 04 衣・住と環境
- 05 人間と野生生物
- 06 公害
- 07 「ごみ問題」を考える
- 08 地球規模の環境問題
- 09 外来種
- 10 日本のエネルギー事情
- 11 安全安心な生活環境
- 12 「住みよい街」とは

- 13 今話題の環境用語を調べよう
- 14 持続可能な社会を考える
- 15 持続可能な社会づくり

授業時間 【事前学修】

外の学修 日本や世界の環境に関する現状や課題について関心を持ち、新聞やインターネット等を活用して調べてください。自分が生活する身近な地域の状況に関心を持ち、自分にできることを考えましょう。（2時間×15回程度）

【事後学修】

授業で学んだことをさらに広く深く調べてください。学習したことを自分の生活で生かし、問題の解決のために自分にできることを実践し、効果を考察してください。

評価方法 授業への取り組み30%、提出物・課題レポート50%、定期試験20%

アクティブ ラーニング グループディスカッション ワークショップによる思考の深化 自己の考えや収集した情報の共有化

フィードバック 提出したレポートに教員のコメントを記入して返却します。
質問や疑問について個別に対応し、必要に応じて全体にフィードバックします。

実務経験 ○ 小学校・中学校教員（理科）として勤務した実務経験を生かし、環境問題についての問題解決に向けた実践力を身に付けられるような授業を行う。

教科書

参考書 よくわかる環境科学 鈴木孝弘著 オーム社 ISBN978-4-274-22320-4 C3050
生活と環境 藤代敏幸 東京教学社 ISBN978-4-8082-5012-6

備考 意見を交換したりグループの意見をまとめたり発表したりします。自分の考えをしっかりと持ち、積極的に発表してください。

ナンバリング	32232	32200	科目名	身体のしくみと働き	
担当教員	安嶋 隆				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 人の体のしくみの解明までにはどのような歴史があるのかを学び、人体の素晴らしさを再認識します。また、それぞれの器官がどのようにつながり、どのような意味を持っているのかを考えます。さらに最先端の医療分野での課題や問題点を取り上げて、日々の生活に反映できる健康維持の実践例を議論します。

到達目標 (1)ヒトの体については長い研究の歴史があることを説明できます。
 (2)テキストや補助教材(模型等)を用いて、各器官のしくみと働きを説明できます。(3)各器官から出るホルモンや神経の相互作用を説明できます。(4)医療分野における課題や問題点を調べ、ディスカッションすることにより、理解を深めることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針** ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 授業の目的と流れを知る (1)生きているということ(恒常性、自然治癒、免疫、再生、細胞のしくみ)(2)体の器官の名称と働きについて
- 02 人体解剖の歴史 (1)人体の解剖が人の研究にどのような影響を与えたか(2)日本の人体解剖の歴史
- 03 血液を循環させるしくみ (1)血液循環のシステムと免疫システム(2)免疫の種類(3)血管系と心臓
- 04 呼吸をするしくみ (1)肺でのガス交換のしくみ(2)ブタの肺の実物提示
- 05 脳の進化と働き (1)記憶のメカニズム(2)脳の進化(3)小テスト
- 06 食べ物を消化し吸収するしくみ (1)ブタの胃の解剖(2)胃、神経、ホルモンの相互作用(3)現代病
- 07 大腸の働き (1)大腸とホルモン(2)腸内細菌の最新情報 課題提出1
- 08 腎臓の働き (1)ブタの腎臓の解剖(2)尿が作られるしくみと尿検査でわかること(3)現代人の食生活の問題点
- 09 肝臓の働き (1)肝臓の驚くべき機能(2)人工肝臓は作れるか(3)肝臓とホルモン
- 10 目の構造と働き (1)ブタの目の解剖(2)ヒトとブタの目の比較(3)目の病気と治療
- 11 神経の働き (1)神経の種類と調節作用(2)神経症の原因(3)小テスト
- 12 心臓の働きと作用 (1)ブタの心臓の解剖(2)心臓とホルモンの調節作用(2)心臓移植の歴史
- 13 ヒトの遺伝 (1)ヒト遺伝の研究の歴史(2)ヒトの遺伝のしくみ 課題提出2

- 14 ヒトの発生 (1)ヒトの発生のしくみ(2)遺伝子治療の課題
- 15 最先端の医療 (1)iPS細胞、ヒトゲノム、DNA鑑定(2)ヒトの体の不思議

授業時間 【事前学修】

外の学修 ヒトの病気や健康に関する内容をWebや新聞記事を利用してノートにまとめる。日常の生活で健康や病気について気になったことや疑問点をノートに記入しておき、友人と情報の共有をする。ヒトの体に関する図書を積極的に利用する。先端医療の話題や用語をまとめておく。(約2時間)

【事後学修】

授業で学習したことで疑問点が解決できたなら、その内容を授業ノートにまとめる。授業の内容に関連した新聞やWebの記事に対して各自の意見をまとめる。(約2時間)

評価方法 定期試験50%、課題提出20%、小テスト2回20%、ノート提出10%

アクティブ
ラーニング

フィード
バック 課題提出については、個別にコメントします。また、どのような文献を参考にしたのかをチェックして、文献調査の方法を記入して返却します。

実務経験 ○ 高等学校での生物担当の経験を生かし、食生活や健康管理には人体の働きやしくみを理解することが重要であることを強調する。

教科書 人体のしくみと病気がわかる事典 奈良信雄監修 西東社

参考書 なし

備考 小テストについて、コメントを加えてフィードバックを行います。ノート提出について、授業内容の疑問点や質問に答えます。

ナンバリング		32200		科目名	データサイエンス入門	
担当教員		助川 公継				
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒)	資格関連	☐ 必修 (幼)	☐ 必修 (司)	☐ 選択必修 (保)	☐ 選択 (上秘)
	☐ 選択必修 (卒)		☐ 必修 (保)	☐ 必修 (上秘)	☐ 選択 (幼)	☐ 選択 (上秘メ)
	☒ 選択 (卒)		☐ 必修 (音療)	☐ 必修 (上秘メ)	☐ 選択 (保)	☐ 選択 (音療)
	☐ 選択		☐ 必修 (准)	☐ 選択必修 (幼)	☐ 選択 (司)	

授業概要 数理・データサイエンス・AIは、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールです。この講義では、数理・データサイエンス・AIがどのような領域でどのように利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明します。また、数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり、留意すべき事項についても解説します。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行います。

到達目標

- (1) 数理・データサイエンス・AIが社会にもたらした変化およびデータ・AIの利活用の最新動向について説明できる。
- (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AIの活用領域について説明することができる。
- (3) データ・AIの利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。
- (4) 数理・データサイエンス・AIの利活用に当たり留意すべき事項 (ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等) を説明できる。
- (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション (授業の進め方、使用する機器など)
- 02 AIリテラシーとは (定義、必要性、生成AI)
- 03 社会でどのような変化が起きているか (ビッグデータ、IoT、Society5.0、データ駆動型社会)
- 04 社会でどのようなデータが活用されているか (人の動線をめぐるデータ、オープンデータ)
- 05 データ・AIを何に使えるか (活用領域の広がり、どう使えばよいか、エビデンスベース社会)
- 06 データ・AIの技術 (データ解析、可視化の手法、言語・画像・音声処理、AIの技術とは)
- 07 データを読み、説明し、扱う (データの種類、データの特徴 (真ん中、散らばり具合)、母集団と標本)
- 08 データ・AIを扱うときに注意すること (負の側面、ELSI, オプトイン・オプトアウト、データの正義)
- 09 データ・AIにまつわるセキュリティ (情報セキュリティの基礎、生成AIが生み出すリスク)
- 10 統計と数学の基本 (集合と場合の数、和の法則、積の法則、確率、確率分布、推測統計)

- 11 アルゴリズムとは何か（ハードウェアとソフトウェア、探索問題、局所最適、全体最適）
- 12 データの構造とプログラミング（プログラミングの歴史、データの構造、変数、条件分岐、繰り返し）
- 13 データを上手に扱うには（ビッグデータの収集、データベース、データ加工）
- 14 時系列データと文章データの分析
- 15 データ活用実践（教師あり学習と教師なし学習）

授業時間 【事前学修】

外の学修 シラバスで次の授業内容を確認し、課題内容に関する情報を収集しておくようにしてください。（2時間）

【事後学修】

自らの興味関心に基づいて、授業内容に関し調べたりまとめたりしてください。（2時間）

評価方法 (1)授業への取り組み(30%) (2)課題レポート(30%) (3)定期試験(40%)

<課題レポートの評価基準>

1. 決められた字数内で、誤字脱字がなく文章表現が適切か（10%）
2. 求められている課題に内容が即しているか（20%）
3. 指定されたフォーマットに即して作成されているか（40%）
4. 課題の考察が授業内容を加味したものになっているか（30%）

アクティブラーニング グループワーク、調査活動、プレゼンテーション

フィードバック ・授業内での話し合いや発表等については、その都度フィードバックを行います。

実務経験 ○ 小中学校や教育行政での勤務経験を生かし、統計的な考え方やデータの扱い方等について具体的例をあげながら授業を行います

教科書 岡嶋裕史・吉田雅裕共著「はじめてのAIリテラシー」 技術評論社

参考書 授業の中で紹介します。

備考 データサイエンスは人や社会を知る強力な武器になりますが、一方で強すぎる武器には歯止めをかける力も必要です。変化の激しい時代を生き抜く力として必要になってきます。使いこなせる側として日頃から関心をもって生活して欲しいと思います。

ナンバリング	11242		科目名	マルチメディア演習		
担当教員	内桶 真二					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 高等学校情報科「情報I」で学んだことを前提として、本学で2年間学ぶ上で求められる情報リテラシー、コンピュータリテラシーを演習形式で学びます

- 到達目標
- (1)本学の情報システム環境を理解できます。
 - (2)情報リテラシーが身につきます。
 - (3)コンピュータリテラシーが身につきます。
 - (4)BYOD(持ち込み機器の利用)によって、自己所有の機器の操作法が身につきます。
 - (5)クラウドコンピューティングの基礎が身につきます。
 - (6)授業時や社会人となった際に求められるPCの操作法が身につきます。
 - (7)わからないことがあったら自らすぐに調べる習慣が身につきます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 この科目の進め方
 - ・学習環境構築 (Windows / macOS / ChromeOS / iPadOS / iOS / Android)
 - ・Microsoft 365 Copilotの基本操作・無線LANの設定
- 02 Microsoft 365 Copilotアプリに親しむ(1)
 - ・Teams
 - ・SharePoint
 - ・Outlook
- 03 Microsoft 365 Copilotアプリに親しむ(2)
 - ・Word (ワードプロセッサ)
 - ・印刷機能
- 04 Microsoft 365 Copilotアプリに親しむ(3)
 - ・PowerPoint (プレゼンテーションツール)
- 05 Microsoft 365 Copilotアプリに親しむ(4)
 - ・Visio (作図ツール)
- 06 Microsoft 365 Copilotアプリに親しむ(5)

・Excel（表計算ツール）

- 07 Microsoft 365 Copilotアプリに親しむ(6)
・Copilot（対話型生成AI）（+Google Gemini）
- 08 スマートフォン・タブレットなどで録音して素材を作成する
（レコーダーアプリを使った録音）
- 09 録音したものを編集して音声作品を作る
- 10 音声作品を鑑賞して批評する
- 11 スマートフォン・タブレットなどで映像を撮影して素材を作成する
（カメラアプリを使った撮影）
- 12 撮影したものを編集して映像作品を作る
- 13 映像作品を鑑賞して批評する
- 14 グループごとにテーマを決めてデータを収集し内容を読む
- 15 収集したデータを他グループに対して説明し、批評を受ける

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業時間外もコンピュータ演習室や図書館のパソコン、個人所有のPC、タブレット、スマホを利用する時間を意識的に増やしてください。また、次の授業で使用するアプリケーションを、スマホなどに事前インストールすることを依頼することがあります。
事前学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

【事後学修】

授業時間内に適宜課題を出します。課題を中心に学修して理解を深めてください。
事後学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります

評価方法 課題(100%)

アクティブ
ラーニング ・ICTの活用
・BYODによる学内および学外での継続的な学習

フィード
バック Microsoft 365のファイル共有機能を活用することによって、履修者ごとに学習進度にあった助言を行います。

実務経験

教科書

参考書

備考 ・資料はオンラインで配付します。
・毎回スマートフォン、PC、またはタブレットを持参してください。

【カリキュラムマップ】

「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」モデルカリキュラムの

1. 社会におけるデータ・AI利活用

2. データリテラシー

3. データ・AI利活用における留意事項

を学びながら、1年後期開設科目「データサイエンス入門」を履修する上で前提となる知識を身につける科目となります。

ナンバリング	12200		科目名	プレゼンテーション入門	
担当教員	塙 雅文				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 プレゼンテーション(プレゼン)は、限られた時間の中で、情報を相手にわかりやすく正確に伝え、受け入れてもらうためのコミュニケーション方法です。卒論発表のみならず社内外の企画発表における自己表現方法としてパソコンを使って行うプレゼン、就活の面接で行うプレゼンなどいろいろな場面で用いられます。本講義ではパソコンを使ったプレゼンの効果的な情報表現力をPowerPointを操作して身に付けることを学びます。

到達目標 (1)一対多数の説明ができるようになります。
 (2)コミュニケーション能力の向上が図れます。
 (3)実際にPowerPointを使用して、プレゼンができるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション 一対多数の説明の仕方とはどうすればよいかを考える。コミュニケーション能力の向上するためにはどうすればよいかを考える。
- 02 プレゼンの基本(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)短い文章を音読する。
- 03 プレゼンの基本(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)少し長い文章を音読する。
- 04 プレゼンの基本(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)長い文章を音読する。
- 05 プレゼンの基本(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)詩の群読をする。グループワーク
- 06 プレゼンの基本(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)物語の群読をする。グループワーク
- 07 プレゼンの基本(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)物語の群読をする。グループワーク
- 08 プレゼンの応用(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)一人で朗読劇をする。

- 09 プレゼンの応用(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)一人で朗読劇をする。
- 10 プレゼンの応用(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)グループで朗読劇をする。グループワーク
- 11 プレゼンの応用(1)よい発声とは何かを考える。(2)柔軟体操をすることにより、体を使って声を響かせる。(3)グループで朗読劇をする。グループワーク
- 12 茨城の観光地を一つ選び紹介するプレゼンスライド作成する。(PowerPointを使用する。)
- 13 新商品を一つ選び紹介するプレゼンスライド作成する。(PowerPointを使用する。)
- 14 プレゼン発表1 お互いのプレゼンの感想を発表する。発表で指摘された点を改善しスライドを作り直す。
- 15 プレゼン発表2 お互いのプレゼンの感想を発表する。発表で指摘された点を改善しスライドを作り直す。

授業時間 【事前学修】

外の学修 発声練習、柔軟体操、群読、音読、朗読の練習をする。授業中に配布したプリントなどをよく読み練習をする。(約2時間)

【事後学修】

発声練習、柔軟体操、群読、音読、朗読の練習を友人同士でする。授業中に配布したプリントをよく読み練習する。(約2時間)

評価方法 (1)課題(50%)、発表(30%)、授業への取り組み(20%)等により総合的に評価します。

アクティブ クリエイティブセッション ロールプレイ
ラーニング

フィード 発表時に必ず、助言指導をする。
バック

実務経験

教科書 適宜プリント等配布

参考書 なし

備考 グループワークを取り入れた授業が多いので、積極的に参加してください。

ナンバリング	33200	33231	科目名	健康とスポーツ	
担当教員	野沢 恵子				
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科 ☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法 ☒ 講義 ☐ 演習 ☒ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 健康について知識を得るとともに、スポーツ等の身体活動を通して自己の健康管理能力を高め、生涯にわたって自身の保持・増進の活動を行えるようにします。この授業では、様々な身体活動を通して体力の向上とともに仲間との協力やコミュニケーション能力向上を図ります。

到達目標 主体的な身体活動を通して心身の健康についての理解を深め、生涯にわたって健康的で豊かな生活を実践できる能力や態度を身につけることができます。

学位授与の方針【表現文化学科】

- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 (1)オリエンテーション(2)履修種目の決定 (3)身体を使った仲間づくり
- 02 (1)自身の健康状態の把握(2)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし
- 03 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(集団行動)(体づくり運動)
- 04 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(基礎的な器械運動)
- 05 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(基礎的なボール遊び)
- 06 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(ラケットを使ったネット型運動)
- 07 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(ボール投げ運動)
- 08 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(ボールを使ったネット型運動)
- 09 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(プレルボール)
- 10 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(ボールを使ったゴール型運動)
- 11 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための運動(手具を使った諸運動)
- 12 (1)講義「栄養と睡眠」
- 13 (1)講義「心の健康とストレス」
- 14 (1)講義「薬物と健康」
- 15 (1)講義「感染症、熱中症」(2)休暇中の運動実施計画
- 16 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし(2)健康づくりのための体操

- 17 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための体操確認
- 18 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ウォームアップアップづくり)
- 19 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ウォームアップアップ発表)
- 20 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(体力測定)
- 21 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(縄を使った運動)
- 22 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(縄を使った運動発表)
- 23 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ドッジボール)
- 24 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ポートボール)
- 25 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(ハンドボール)
- 26 (1)基礎ストレッチ・トレーニング・ほぐし (2)健康づくりのための運動(運動活動づくり)
- 27 (1)講義「応急手当」
- 28 (1)講義「ストレスと自分」
- 29 (1)講義「健康と環境」
- 30 (1)講義「スポーツと歴史の文化」

授業時間 【事前学修】

外の学修 経験したことのないスポーツやエクササイズについては、授業前に特徴等を調べておいてください。

【事後学修】

授業で扱った身体活動を継続し、生涯にわたって健康に関して知識を得たり意識したりしていくことが望ましいです。心と身体の健康を保つ、あるいは向上させていくように日々の習慣にしてください。

事前事後学修の目安は合計約2時間程度とします。

評価方法 授業への取り組み(60%)、体操服・ゼッケン・体育館シューズ等の身だしなみ(10%)、授業シートおよびレポート課題(30%)等によって総合的に評価します。

授業シートおよびレポートの評価基準

(1)字数や提出期限を守ることができている(20%) (2)誤字脱字がなく、表現が適切である(10%)

(3)内容がテーマに則して適切である(30%) (4)自分の考えを表現しているとともに考察が充分である(40%)

アクティブ
ラーニング ペア・グループワーク

フィード
バック 毎回提出する授業シートについては、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。

実務経験 ○ 小学校・中学校教員(保健体育科)として勤務した実務経験を活かし、生涯にわたって学生自らが心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための実践力を身につける授業を行なうとともに、教育行政として経験した幼稚園訪問指導等から得た、幼児教育の運動についての課題等を提示しながら授業を行います。

教科書 なし

参考書 テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。

備考 この授業では運動に適した動きやすい服装を着用してください。なお、熱中症等のリスクを軽減するために、こまめな水分補給を心がけてください。実技、ペア・グループワーク等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。

※自由選択種目

フィットネスおよびエクササイズ(骨盤矯正エクササイズ、フラフープ、バランスボール、バランスボード、ストレッチボール、シェイプアップローラー、ウォーキング、ジョギング等)

スポーツ(ドッジボール、バスケットボール、バレーボール、フットサル、バドミントン、卓球、ソフトバレーボール、硬式テニス、軟式テニス、キャッチボール、フリスビー、輪投げ、グランドゴルフ等)

その他(ラジオ体操、大縄跳び、雑巾リレー、ボール運びリレー、うつ伏せダッシュ、ツイスター等)

ナンバリング	31200		科目名	ダンス入門	
担当教員	国府田 はるか				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☐ 演習 ☒ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 様々なジャンルの基本的なダンステクニックを学び、リズムに合わせて踊ることの楽しさを体感するとともに、からだをまるごと使った自由な即興表現を通して、創造的で個性豊かな身体表現を実践します。また、グループ創作を通じて表現の多様性を認め、他者の表現を捉え受け入れ共感する姿勢を養います。この授業では、ペア・グループワーク、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等のアクティブ・ラーニングの技法を取り入れます。

到達目標 からだを通して思いのままに伸び伸びと気持ちよく表現することのできる「しなやかなからだ」を修得することができます。また、身体表現の奥深さを追求する中で、他者や環境に対して開かれた「柔らかなからだ」を修得することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 (1)オリエンテーション (2)運動経験アンケート (3)ダンス鑑賞
- 02 (1)ストレッチ (2)ダンスの基本姿勢 (3)筋力トレーニング
- 03 (1)ストレッチ (2)ヨガ (3)マッサージによるコンディショニング
- 04 (1)ストレッチ (2)ピラティス (3)エアロビクス
- 05 (1)ストレッチ (2)チアダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)
- 06 (1)ストレッチ (2)ジャズダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)
- 07 (1)ストレッチ (2)ベリーダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)
- 08 (1)ストレッチ (2)フラダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)
- 09 (1)ストレッチ (2)ヒップホップダンスの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)
- 10 (1)ストレッチ (2)フラメンコの基本テクニック (3)コンビネーション(振付)
- 11 (1)ストレッチ (2)バレエの基本テクニック (3)身体表現創作とは (4)即興表現
- 12 (1)ストレッチ (2)モダンダンス・コンテンポラリーダンスの基本テクニック (3)グループ創作
- 13 (1)ストレッチ (2) グループ創作「小道具を用いて」 (3)作品発表

14 (1)ストレッチ (2)グループ創作「自然をモチーフとして」「他者との繋がり」 (3)作品発表

15 (1)ダンスの意義 (2)ディスカッション (3)振り返りレポート

授業時間 【事前学修】

外の学修 経験したことのないダンスやエクササイズについては、授業前に成り立ちや特徴等を調べておいてください。

【事後学修】

授業で扱った身体活動を継続し、実践知を深めることが望ましいです。心身のコンディションに関心を持ち、向上させていくための主体的な身体活動を日々実践するように心がけてください。また、普段から身の回りの様々な事象に興味関心をもち、こころを動かされる体験をしておくことが、豊かな感性に基づく身体表現へと結びつきます。

事前事後学修の目安は合計約2時間程度とします。

評価方法

授業への取り組み(40%)、授業シートおよびレポート(30%)、実技発表(30%)等によって総合的に評価します。

授業シート・レポートの評価基準 (1)字数や提出期限を守ることができている (20%) (2)誤字脱字がなく、表現が適切である (20%) (3)内容がテーマに即して適切である(30%) (4)考察が充分である(30%)

実技発表の評価基準 (1)笑顔で踊ることを楽しんでいるか (20%) (2)全身を大きく使って踊っているか (20%) (3)生き生きと世界観を表現しているか (20%) (4)観客に伝えようという意欲があるか (20%) (5)チームで協力して練習を行っていたか (20%)

アクティブラーニング

ペア・グループワーク、ディスカッション、クリエイティブ・セッション

フィードバック

毎回提出する授業シートや実技発表については、個別のフィードバックもしくは全体講評のフィードバックを行います。

実務経験

○ ダンサー・振付家として活動する教員の実務経験を活かし、ダンスや作品創作に関する実践的な授業を行います。

教科書

なし

参考書

テーマに応じて参考文献・参考資料を紹介します。

備考

この授業では運動に適した動きやすい服装を着用してください。なお、熱中症等のリスクを軽減するために、こまめな水分補給を心がけてください。ペア・グループワーク、ディスカッション、クリエイティブ・セッション等を取り入れた授業を行うため、積極的かつ主体的な取り組みを望みます。また、他者の表現を受け入れ共感するとともに、共に創りあう姿勢を心がけてください。

ナンバリング	11100		科目名	英語I-A	
担当教員	内桶 真二				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 基礎的な英語運用能力（読む、書く、聞く）を養うことを目的とし、(1)教科書で基本事項を確認し、(2)パソコンを利用して教材管理システムに登録されている練習問題をクイズ形式で理解を確かめ、(3)学外のオンラインの練習問題に取り組みながら（復習テスト）、学習内容を定着させます。教科書1単元が6ページで、1単元を2時間の授業、1時間あたり3ページの割合ですすめていきます。1時間目が基本事項の確認で、2時間目がその発展、3時間目がまとめ・確認と応用となります。

到達目標 (1)英語と日本語の違いに注意しながら、英語の基本事項を身につけ、英語の基本的な表現が活用できる。(2)外国語の学習を通じて、異なる文化の存在を意識するとともに、外国語の学習に辞書を活用することができる。(3)外国語の学習を通じて、日本語・日本文化あるいは自分自身を見つめ直し、たゆまぬ努力を勤勉に積み重ねることを身につける。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 導入 授業の進め方、システムの利用法、オンライン（リング・ポルタ）学習登録、問題練習
- 02 be動詞 出迎え・紹介の表現 基礎
- 03 be動詞 出迎え・紹介の表現 発展
- 04 be動詞のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 05 一般動詞 現在 疑問文・否定文 尋ねる・説明する表現 基礎
- 06 一般動詞 現在 疑問文・否定文 尋ねる・説明する表現 発展
- 07 一般動詞（現在）のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 08 一般動詞 過去 疑問文・否定文 謝罪する・意向を尋ねる表現 基礎
- 09 一般動詞 過去 疑問文・否定文 謝罪する・意向を尋ねる表現 発展
- 10 一般動詞（過去）のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 11 wh疑問文、さまざまな疑問詞 基礎
- 12 wh疑問文、さまざまな疑問詞 発展

- 13 wh疑問文のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 14 前期の総復習問題50問（2回）
- 15 前期の総復習問題50問（2回）
（計、50問を4回）

授業時間 【事前学修】

外の学修 知らない単語や語句を調べるなどの事前学習が1時間必要となります。

【事後学修】

空き時間などを利用して1時間程度練習問題を繰り返し学ぶことが学習内容を定着させる早道であり、必要です。教科書関連の練習問題とオンラインの練習問題には自宅のコンピュータやスマートフォン・タブレット端末などからもアクセスできます。

評価方法 練習問題の成果(取り組んだ回数と正解率)を含む授業への取り組み(60%)、定期試験(40%)

アクティブ ラーニング クイズ形式、復習テスト

フィードバック 教材管理システムが回答に応じて即時フィードバックを行う。

実務経験

教科書 Let's Read Aloud & Learn English! (音読で始める基礎英語) 角山・Capper 成美堂

参考書 授業内で指示します。主にネット上の参考資料を活用します。

備考 毎回、まとめや復習の練習問題を課し、自動採点または教員が採点しコメントをつけるなどし、その場で学習内容を確認しながら進めていきます。
イヤフォン (3.5ミリ ミニ (プラグ) : 一般にはステレオミニと呼ばれるもの、またはBluetooth接続のもの)を持参すること。
各自タブレット端末などを持参して受講することも可能です。

ナンバリング	12100		科目名	英語I-B	
担当教員	内桶 真二				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 基礎的な英語運用能力（読む、書く、聞く）を養うことを目的とし、(1)教科書で基本事項を確認し、(2)パソコンを利用して教材管理システムに登録されている練習問題をういクイズ形式で理解を確かなものとし、(3)学外のオンラインの練習問題に取り組みながら（復習テスト）、学習内容を定着させます。教科書1単元が6ページで、1単元を2時間の授業、1時間あたり3ページの割合ですすめていきます。1時間目が基本事項の確認で、2時間目がその発展、3時間目がまとめ・確認と応用となります。

到達目標 (1)英語と日本語の違いに注意しながら、英語の基本事項を身につけ、英語の基本的な表現が活用できる。(2)外国語の学習を通じて、異なる文化の存在を意識するとともに、外国語の学習に辞書を活用することができる。(3)外国語の学習を通じて、日本語・日本文化あるいは自分自身を見つめ直し、たゆまぬ努力を勤勉に積み重ねることを身につける。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 授業の進め方の再確認：
助動詞 依頼する表現 基礎
- 02 助動詞 依頼する表現 発展
- 03 助動詞のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 04 文の種類と命令文・感嘆文 基礎
- 05 文の種類と命令文・感嘆文 発展
- 06 文の種類のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 07 進行形（現在・過去） 相談・励ましの表現 基礎
- 08 進行形（現在・過去） 相談・励ましの表現 発展
- 09 進行形のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 10 未来を表す表現 聞き返す・確認する表現 基礎
- 11 未来を表す表現 聞き返す・確認する表現 発展

- 12 未来を表す表現のまとめ・オンライン学習（確認と応用）
- 13 後期の総復習問題50問（その1）
- 14 後期の総復習問題50問（その2）
- 15 後期の総復習問題50問（その3）
（計、50問を4回以上）

授業時間 【事前学修】

外の学修 知らない単語や語句を調べるなどの事前学習が1時間必要となります。

【事後学修】

空き時間などを利用して1時間程度練習問題を繰り返し学ぶことが学習内容を定着させる早道であり、必要です。教科書関連の練習問題とオンラインの練習問題には自宅のコンピュータやスマートフォン・タブレット端末などからもアクセスできます。

評価方法 練習問題の成果(取り組んだ回数と正解率)を含む授業への取り組み(60%)、定期試験(40%)

アクティブ
ラーニング クイズ形式、復習テスト

フィード
バック 教材管理システムが回答に応じて即時フィードバックを行う。

実務経験

教科書 Let's Read Aloud & Learn English! (音読で始める基礎英語) 角山・Capper 成美堂

参考書 授業内で指示します。主にネット上の参考資料を活用します。

備考 毎回、まとめや復習の練習問題を課し、自動採点または教員が採点しコメントをつけるなどし、その場で学習内容を確認しながら進めていきます。
イヤフォン(3.5ミリ ミニ(プラグ))：一般にはステレオミニと呼ばれるもの、またはBluetooth接続のもの)を持参すること。
各自タブレット端末などを持参して受講することも可能です。

ナンバリング	11142		科目名	『読む』ということI		
担当教員	小林和子					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 近現代の散文、特に代表的な作家の有名な短篇小説を丹念に読んでいくことによって、一つ一つのことにこだわりながら作品を深く読むことの大切さを学び、ことばへの感受性を育み、文学作品の面白さを見つけることを目的としたいと思います。それと同時に作者についても学び、2年次の卒業論文、卒業研究の基本になるようにと考えています。本離れ、文学離れ、活字離れの若い世代が、文学作品をきちんと読むことで自分自身を見つめる、そして日本文学の魅力を発見できればと思います。

到達目標 文章を正しく読み、内容をきちんと理解し、文学作品の読解力を身につけることができます。代表的な近現代の短篇小説を講読し、その中で歴史的仮名遣いも復習しながら、ことばの意味や漢字を学びつつ、作品の深い読み方を学ぶことができます。また、その中で作家の基本知識も獲得することができます。なるべく季節感とあった作品を読んでいくことで、日本の季節と言葉との関係の深さを実感することができます。なお、作品は学生の希望や経験を考慮して選んでいくので変わることがあります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンスー桜と日本文化
- 02 日本文学の中の桜の伝統、梶井基次郎「桜の樹の下には」
- 03 坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む
- 04 坂口安吾について
- 05 舞台「贗作・桜の森の満開の下」と比較する
- 06 太宰治「葉桜と魔笛」を読む
- 07 太宰治「桜桃」読む
- 08 桜桃忌と太宰治について
- 09 太宰治「待つ」「トカトントン」などを読む
- 10 芥川龍之介「羅生門」を読む
- 11 芥川龍之介作品と典拠「今昔物語」を比較する

- 12 芥川龍之介の妻への恋文を読む
- 13 夏目漱石「夢十夜」を読む
- 14 夏目漱石について
- 15 無頼派の作家や漱石と芥川についてのまとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業内容に書かれている作品やその作家のほかの作品などを事前に読んでおくことが望ましい。その中で分からない漢字や言葉をノートに書いて調べておくこと。2時間程度が望ましい。

【事後学修】

その作家や関連する作家の他の作品を読む。2時間程度が望ましい。

評価方法 授業への取り組み(30%)、授業内小テスト(30%)、期末レポート(40%)

アクティブ ラーニング グループディスカッション、作家の作品に関係ある場所や事項について自ら情報収集する。実際の桜を鑑賞するためフィールドワークも取り入れたい。

フィードバック リアクションペーパーをもとにコメントする 漢字の読みや意味などの小テストを課す

実務経験

教科書 プリント使用

参考書 適宜授業で紹介する

備考

ナンバリング	12100		科目名	『読む』ということII	
担当教員	金子 未佳				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 若くして病に倒れた正岡子規は、死の2日前まで随筆「病牀六尺」を新聞『日本』に発表しました。この授業では、『病牀六尺』『仰臥漫録』を読むとともに、書簡を通して知る夏目漱石との交友についても取り上げます。子規のこころとまなざしに寄り添いながら随筆を読み、家族や友人との関わり、趣味嗜好を知るとともに、明治時代の世相・風俗についても理解を深めます。

到達目標 (1)夏目漱石と正岡子規の生涯と業績を知ることができます。
(2)正岡子規の随筆、日記を読み解くことができます。
(3)明治時代の世相や風俗について知ることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 事前テスト、夏目漱石の生涯と業績について
- 02 正岡子規の生涯と業績について
- 03 個別発表・事前事後学修ガイダンス (担当箇所・レジュメ作成・課題提出など)
- 04 『坂の上の雲』に描かれた漱石と子規(1)―明治の青春―
- 05 『坂の上の雲』に描かれた漱石と子規(2)―子規の発病―
- 06 小テスト、個別発表開始『仰臥漫録』にみる子規と病、『仰臥漫録』にみる子規と食
- 07 『仰臥漫録』を読む(1) 明治34年9月
- 08 『仰臥漫録』を読む(2) 明治34年10月
- 09 『病牀六尺』を読む(1) 明治35年5月
- 10 『病牀六尺』を読む(2) 明治35年6月
- 11 『病牀六尺』を読む(3) 明治35年7月
- 12 『病牀六尺』を読む(4) 明治35年8月上旬
- 13 『病牀六尺』を読む(5) 明治35年8月下旬

14 『病牀六尺』を読む(6) 明治35年9月上旬

15 『病牀六尺』を読む(6) 明治35年9月下旬、『坂の上の雲』に描かれた子規(3)—子規の死—

授業時間 【事前学修】

外の学修

- ・出来るだけ多くの夏目漱石と正岡子規の作品を読んでおくこと。
- ・夏目漱石と正岡子規が生きた明治時代に関する文献にも目を通すこと。
- ・事前学修として指示した課題に取り組む。
- ・担当箇所については、計画的に準備を進め、提出期限内にレジュメを完成させるようにする。
(約2時間)

【事後学修】

- ・授業中にわからなかったことや、興味関心を持ったことを調べる。
- ・事後学修として指示した課題に取り組む。
- ・参考書を読む。
(約2時間)

評価方法 個別発表 (30%)、提出物 (事前事後学修記入用紙・感想文) ・授業への取り組み (20%)、事前テスト・小テスト (20%)、定期試験 (30%)

アクティブ ラーニング グループディスカッション、映像活用学習

フィードバック 授業内発表について、個別及び全体講評のフィードバック

実務経験

教科書 正岡子規著『病牀六尺』 (岩波文庫、2022)、正岡子規著『仰臥漫録』 (岩波文庫、2022)

参考書 小森陽一著『子規と漱石 友情が育んだ写真の近代』 (集英社新書、2016)
伊集院静著『ノボさん 小説 正岡子規と夏目漱石』 (講談社、2013)
正岡子規著・早坂暁著『仰臥漫録 附・子規とその妹、正岡律』 (幻戯書房、2017)

備考 1回目の授業で事前テストを実施します。事前テスト前に、夏目漱石と正岡子規の略歴と代表作品を把握するとともに、伊集院静著『ノボさん 小説 正岡子規と夏目漱石』 (講談社、2013) を読んでおいてください。※講談社文庫版も可
『仰臥漫録』『病牀六尺』は個別に担当を割り振ります。
履修者は担当箇所に関わらず、教科書を全て読み、参考書にも目を通しておいてください。各回で事前学修・事後学修課題の提出があります。
演習課題 (感想文、事前学修・事後学修記入用紙) は提出期限厳守です。未提出が1回でもあった場合、単位を出さないことがありますので注意してください。
履修者全員が自らの考えをディスカッションすることが大切です。質疑応答の際には、積極的に参加してください。授業内の発表については、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	11142		科目名	『書く』ということI		
担当教員	小野 孝尚					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼)	☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 選択 (司)		

授業概要 日本語での表現について、文章表現を中心に理論を学習し、実際に文章を綴り、実践しながら表現力の向上をめざす。映像による名作鑑賞も取り入れる。(1)基礎的な原稿用紙の使い方(2)卒業論文や就職小論文の書き方(3)実用的な手紙、葉書にも触れる(4)相互評価(5)振り返り(6)大学の行事に合わせた小レポートの提出。

到達目標 (1)文章表現の表記等(基礎知識)を身につけることが出来ます。(2)情報収集力と構成力を高め、文章表現の為の手順を会得することが出来ます。(3)語彙能力や思考力を身につけ実用文や論文等が書けるようになります。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針** ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 文章を書くにあたって(1)
(1)問題意識を持つ(2)話し言葉と書き言葉(3)文章を書く心構え(4)文章を書く効用(5)良い文章を書くための心得3ヵ条
- 02 文章を書くにあたって(2)
(1)辞書の利用について(2)文章表現の実際(3)読むことと書くこと
- 03 諸符号の基礎知識
(1)叙述にさいして活用する諸符号の基礎知識(2)諸符号のルールを守る(3)身近な所にもある符号について
- 04 原稿用紙の基本的な使い方(1)
(1)原稿用紙に縦書きで書く(2)基本的な使い方について(3)表記上の諸注意
- 05 原稿用紙の基本的な使い方(2)
(1)引用文の扱い方(2)筆記用具とインク(3)その他の注意
- 06 文章表現の手順(1)
(1)文章を書くとは(2)文章表現の手順(3)目的を明確にする
- 07 文章表現の手順(2)
(1)題材を探す(2)主題を考える(3)材料の集め方
- 08 文章表現の手順(3)
(1)構成の手順(2)表現に注意して下書きをする(3)推敲して清書する
- 09 文章表現上の技術(1)

(1)何をどう書くか・模範とすべき文章

10 文章表現上の技術(2)

(1)レトリックとは何か・構成の型(2)一般的な修辞法について

11 新聞における気になる表現

(1)新聞を読む(2)新聞の中から気になる表現を含めたいくつかの例を見る(3)新聞のスクラップ帳について

12 論説文を書くにあたって(1)

(1)論説文とは何か(2)論説文のしくみ(3)論証の方法

13 論説文を書くにあたって(2)

(1)論説文と批評文(2)レポートの注意点

14 論説文を書くにあたって(3)

(1)卒業論文を書くにあたって

15 名作鑑賞

まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 (1)毎日の生活の中で、新聞や雑誌等の活字による情報やコラムを収集(「スクラップ帳」)する。
(2)「私のノート」(雑記帳)の制作。

【事後学修】

(1)漢字、熟語、慣用句、ことわざを学修する。
(2)名作を文庫本等で読む。

学修の目安時間は合わせて4時間とする。

評価方法 提出物(30%) 授業への取り組み(30%) 最終レポート(40%)
レポートの評価基準は、題意把握(40%) 論理構成(30%)表現・文字の正確さ(30%)

アクティブラーニング 質問、声掛け、ミニットペーパー、口頭発表、相互評価

フィードバック ミニットペーパーへの応答
提出物の評価と講評のフィードバック

実務経験

教科書 プリントを使用

参考書 文章表現と会話 小野孝尚著 双文社出版

備考 質問・感想・要望等については、ミニットペーパーを配付しますので、その都度記入して提出して下さい。
返答します。
提出物については、全体講評のフィードバックを行います。
小レポートとしてまとめたものを前に出て口頭で発表し、相互評価を行う場合もあります。積極的に授業に参加して下さい。

ナンバリング	12100		科目名	『書く』ということII	
担当教員	小野 孝尚				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 日本語での表現について、文章表現を中心に理論を学習し、実際に文章を綴り、実践しながら表現力の向上をめざす。視聴覚室を利用した映像による名作鑑賞も取り入れる。(1)基礎的な原稿用紙の使い方(2)卒業論文や就職小論文の書き方(3)実用的な手紙、葉書にも触れる(4)相互評価(5)振り返り(6)大学の行事に合わせた小レポートの提出。

到達目標 (1)文章表現の表記等(基礎知識)を身につけることが出来ます。(2)情報収集力と構成力を高め、文章表現の為の手順を会得することが出来ます。(3)語彙能力や思考力を身につけ実用文や論文等が書けるようになります。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 論説文を書くにあたって(4)
(1)卒業論文の書き方(2)能動的な行為(3)題目にうちこむ
- 02 論説文を書くにあたって(5)
(1)卒業論文の書き方(2)能動的な行為(3)題目にうちこむ
- 03 手紙に関する基礎知識(1)
(1)前文について(2)本文について(3)後付けについて(4)心に響く手紙あれこれ
- 04 手紙に関する基礎知識(2)
(1)往復葉書について(2)一枚の葉書から(3)字手紙の味わい(4)Eメールの利便性
- 05 手紙に関する基礎知識(3)
(1)手紙に関する常識について(2)文学者の手紙(3)画家の手紙
- 06 手紙を書く
(1)実際に手紙を書く(2)友人に近況を知らせる葉書を書く(3)恩師に近況を報告する手紙を書く
- 07 就職のための作文・小論文(1)
(1)就職試験と作文・小論文について(2)作文と小論文の違い(3)小論文の対策
- 08 就職のための作文・小論文(2)
(1)作文・小論文の評価について(2)基本的なこと(3)内容・構成・表現

- 09 就職のための作文・小論文(3)
(1)作文・小論文に強くなる秘訣(2)知的生活(3)構想メモ(レジュメ)(4)「私のノート」「スクラップ帳」の活用(5)実際に書いてみる
- 10 就職のための作文・小論文(4)
(1)実際に書いてみる(2)自己をめぐる課題(3)職業・社会に関する課題
- 11 就職のための作文・小論文(5)
(1)相互評価
- 12 編集に関する基礎知識(1)
(1)構想について(2)実際にA3用紙で新聞制作
- 13 編集に関する基礎知識(2)
(1)実際にA3用紙で制作(あなたが編集長)(2)取材の仕方について(3)要点先述法
- 14 編集に関する基礎知識(3)
(1)整理をする(2)印刷の手順(3)校正は三校まで(4)重要な場合は念校(5)相互評価
- 15 名作鑑賞
まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 (1)新聞や雑誌等の活字による情報やコラムを収集し「スクラップ帳」(雑記帳)の制作。

【事後学修】

(1)漢字、熟語、慣用句、ことわざ等を学ぶ。

(2)名作を文庫本等で読む。

学修目安時間は合わせて4時間とする。

評価方法 提出物(30%) 授業中への取り組み(30%) 最終レポート(40%)
レポートの評価基準は、題意把握(40%) 論理構成(30%) 表現・文字の正確さ(30%)

アクティブラーニング 質問、声掛け、ミニットペーパー、口頭発表、相互評価

フィードバック ミニットペーパーへの応答
提出物の評価と講評のフィードバック

実務経験

教科書 プリントを使用

参考書 文章表現と会話 小野孝尚著 双文社出版

備考 質問・感想・要望等については、ミニットペーパーを配付しますので、その都度記入して提出して下さい。返答します。
提出物については、全体講評のフィードバックを行います。小レポートとしてまとめたものを前に出て口頭で発表し、相互評価を行う場合もあります。積極的に授業に参加して下さい。

ナンバリング	11142		科目名	『話す聞く』ということ	
担当教員	金子 未佳				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 将来、社会人として活躍できるよう、「話す」・「聞く」ことの基礎的な能力を身に付けることが目的です。自分の意見を的確に話し、他者に伝えるとともに、他者の話を聞く姿勢を身に付け、話を引き出す技術を学びます。

到達目標 (1) 話し方の基礎を学び、短時間の演習を繰り返し行うことで、的確に伝える「話す」力を身に付けることができます。
(2) 聞き方の基礎を学び、インタビューなどの演習を通して、話を引き出す「聞く」力を身に付けることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、個別発表「自己紹介」
- 02 話し方の基礎(1)雑談力を身に付ける
- 03 話し方の基礎(2)道案内
- 04 聞き方の基礎
- 05 話の要点をつかむメモの取り方ー、話を引き出す聞き方(1)インタビューの実践
- 06 話を引き出す聞き方(2)取材メモを「一人語り」にまとめて発表する
- 07 朗読ー朗読の種類と表現の違いー、ビブリオバトルとは
- 08 ミニビブリオバトル
- 09 ビブリオバトルー予選会ー
- 10 ビブリオバトルー決勝大会ー、プレゼンテーションとは
- 11 10分間プレゼンテーション「わたしの好きなもの(こと)」(1) 個別発表1～5、質疑応答、講評
- 12 10分間プレゼンテーション「わたしの好きなもの(こと)」(2) 個別発表6～10、質疑応答、講評
- 13 10分間プレゼンテーション「わたしの好きなもの(こと)」(3) 個別発表11～15、質疑応答、講評

14 10分間プレゼンテーション「わたしの好きなもの（こと）」(4) 個別発表16～20、質疑応答、講評

15 10分間プレゼンテーション「わたしの好きなもの（こと）」(5) 個別発表21～25、質疑応答、講評

授業時間 【事前学修】

外の学修

- ・友人や家族との会話の中で気になったことをノートに書き留めておく。
- ・ビブリオバトルで紹介する本を選んでおく。
- ・個別発表の際には、話す内容を決め、設定した時間を使い切って満足のいく発表ができるよう、繰り返し練習すること。（約2時間）

【事後学修】

- ・授業の内容（話し方、聞き方、メモの取り方など）について、友人や家族の前で実践し、「話す」「聞く」技術を高める。（約2時間）

評価方法

個別発表（11回～15回実施）（40%）、課題（提出物・発表）・授業への取り組み（30%）、期末レポート（30%）

レポートの評価基準

- 1 字数を守ることができている。（20%）
- 2 誤字脱字がなく、表現が適切である。（20%）
- 3 内容がテーマに即して適切である。（30%）
- 4 論理的にわかりやすく考察している。（30%）

アクティブ
ラーニング

書評プレゼンテーション、プレゼンテーション、グループワーク、ラーニングセル

フィード
バック

授業内の発表については個別助言及び全体講評のフィードバック。
授業内の課題には教員のコメントを記入し返却。

実務経験

教科書

なし 授業中に適宜プリントを配布します。

参考書

なし 授業中に適宜プリントを配布します。

備考

授業内の発表については個別に助言を行うとともに、全体講評のフィードバックを行います。
自ら考えることを求めます。「プレゼンテーション」等の演習課題は履修者全員の前で発表してもらいます。
2人1組やグループ活動を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。

ナンバリング	12100		科目名	日本語・日本文学の歴史	
担当教員	小林和子				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 日本語と日本文学の歴史の概略を学ぶ。前半は日本語の歴史を文字、語彙、音韻、文法、位相語などの分野に分けながら、上代から近代までをプリントなどを使いながら概略的に学ぶ。後半は日本文学の歴史をテキストを使って上代から近世までを概略的に学ぶ。その中で「小倉百人一首」をお正月の前後に学び、カルタ取りゲームも体験する。時間があれば日本近代文学の歴史にも入る。

到達目標 日本語と日本文学の歴史の概略を学び、基礎的な知識を身に付け、日本語や日本文学への意識を高めることができる。また、自分の生活に身近な文字や表記、方言や若者言葉、流行語を意識することによって日本語の変化を実感することができる。日本語や日本文学の幅広い知識や教養を身に付けることができる。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンスー日本語と国語はどう違うのか、日本人はどこから来たのかなどを考える
- 02 日本語の歴史を概括的に文字、語彙、音韻（仮名遣い）、文法、位相語に分ける
- 03 上代の日本語ー漢字の移入と万葉仮名の発明
- 04 音韻の歴史ー上代特殊仮名遣いと日葡事典の意味するもの
- 05 中古の日本語ー「ひらがな」「カタカナ」の発明
- 06 中世の日本語ー藤原定家の存在と和漢混交文
- 07 定家「小倉百人一首」について
- 08 南蛮文化移入と日本語ーキリシタン資料の意味
- 09 近世の日本語ー遊郭文化（花魁言葉）の意味するもの（位相語について）
- 10 現代の日本語と位相語ー新語・流行語について、茨城弁について
- 11 日本文学の歴史（上代）ー「古事記」「日本書紀」「風土記」「万葉集」
- 12 日本文学の歴史（中古）ー「古今和歌集」「伊勢物語」「枕草子」「源氏物語」等
- 13 日本文学の歴史（中世）ー「新古今和歌集」と連歌、遁世文学「徒然草」「方丈記」と軍記物語や能、狂言等

14 日本文学の歴史（近世）－ 俳諧と浮世草子、歌舞伎等

15 日本近代文学への導入

授業時間 【事前学修】

外の学修 流行語や茨城弁、変体仮名、和製英語、現代仮名遣い、二十四節気など幅広い宿題プリントを課すのでそれを授業で発表する。日本文学の歴史ではテキストを読んでおく。

【事後学修】

確認小テスト（日本語の歴史、日本文学の歴史の古典中心）

宿題発表されたものの確認をインターネットや図書館で調査する。新語・流行語大賞の結果を自分なりに考える。

評価方法 授業への取り組み、宿題や課題（40%）、2回の確認小テスト（60%）

アクティブラーニング リアクションペーパー、グループワーク、フィールドワークの一環で通学途中や住んでいる場所の近くで変体仮名や道路標識のローマ字表記を調査する。日本の伝統的文化のカルタ取りを「小倉百人一首」を使って体験する。

フィードバック 確認小テストとリアクションペーパーへの返却と解答

実務経験

教科書 三好行雄、秋山虔編「原色シグマ新日本文学史」（文英堂）ISDN4-578-91080-6

参考書

備考

ナンバリング	12200		科目名	古典の森へ		
担当教員	石井 純一					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 日本古典文学の代表作品である『源氏物語』は、いまや30以上の言語に翻訳され、世界中で人気を集めています。それは、複数のテーマを有しているからです。時代や文化の違いを超越する「普遍性」や「共感性」が、『源氏物語』にはあります。文学や芸術は、実生活に直結するものではありませんが心を豊かにしてくれます。『源氏物語』を読みながら古典を読むことや、楽しむこととはどのようなことを再発見してもらいます。

到達目標

1. 高等学校で学習した古典学習とは、大きく異なった視点で『源氏物語』を学びます。
2. 物語に登場する光源氏と彼に関わる女性にスポットをあて楽しく読むための手法の獲得を目指します。
3. 『源氏物語』とはどのような物語なのか、自分自身の読み、自分が見つけ出したテーマを語ることができることを目指します。
4. 他の古典作品を、講義で学んだ手法を通して自ら読むことができるようにします。

学位授与【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス
 - ・高等学校で学習した古典学習とは、大きく異なった視点で古典を読む方法を学びます。
- 02 桐壺の巻を中心に～後宮における天皇、きさきたち～
 - ・この巻では、有職故実（宮中）について学びます。
- 03 帚木の巻を中心に～十七歳の光源氏～
 - ・この巻では、古典作品における主人公の人物造型について学びます。
- 04 空蟬の巻を中心に～寝殿造りの秘密～
 - ・この巻では、当時の恋愛事情について学びます。
 - 和歌について1
- 05 夕顔の巻を中心に～平安京ミステリーゾーン～
 - ・この巻では、当時の恋愛事情について学びます。
 - 和歌について2
- 06 若紫の巻を中心に～光源氏は誘拐犯ですよ？～
 - ・この巻では、紫のゆかりをキーワードに学びます。

- 07 若紫の巻を中心に～物語以前の謎、縁～
・この巻では、紫のゆかりをキーワードに学びます。
- 08 紅葉賀の巻を中心に～女房とは～
・この巻では、当時の貴族のたしなみについて学びます。
- 09 花宴の巻を中心に～顔を見ない恋はあるの？～
・この巻では、文学の新たな読みを学びます。
- 10 葵の巻を中心に～牛車で争う？～
・この巻では、物語に登場する小道具について学びます。
- 11 須磨の巻を中心に～貴種流離譚とは～
・この巻では、源氏物語へ影響を及ぼした先行文学について学びます。
- 12 『源氏物語』
明石の巻を中心に～『源氏物語』に隠されたテーマを考える～
- 13 絵合の巻を中心に～平安時代のサブカルチャー～
- 14 古典文学の新たな読み方
(1) 平安人の心って現代では通用しないの？
- 15 古典文学の新たな読み方
(2) 清少納言と紫式部はライバルなの？

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- ・本学の図書館には玉上琢弥『源氏物語評釈』（全12巻別巻2）が揃っています。学修する巻については、事前に読むようにしましょう。読み方は初回の講義で指導します。
 - ・指定した教科書については、学修する箇所は事前に読んでおいてください。（2時間）

【事後学修】

- ・玉上琢弥『源氏物語評釈』で本文を確認してください。
- ・講義で紹介した古典作品などは、本学図書館で司書の先生にカンファレンスを受けて見つけ出して、本文を確認しましょう。（2時間）

評価方法	・講義への取り組み（グループワークなど）	20%
	・レポートや課題への取り組み（提出）	30%
	・定期試験	50%

アクティブラーニング	・事前の学修における調査をノートにまとめておく。
	・講義の中で、様々なグループワーク（討議・発表・説明）を行う。
	・他者と意見が異なることを楽しみ、その際、どのような働きかけが良いのかを学びます。

フィードバック	・演習後に提出してもらうレポート（感想や意見）によって学んだことを定着させます。
	・提出物については、教員のコメントを記入し返却します。

実務経験	○ 高等学校で35年の国語科教師としての経験を有します。
------	------------------------------

教科書	平安人の心で「源氏物語」を読む 山本淳子 朝日新聞出版
-----	-----------------------------

参考書	授業内で指示します。
-----	------------

備考	グループ活動を取り入れた演習も講義で行いますので、積極的に参加するには、お互いの意見を尊重しながら聞くということを大事にしてください。そのためには、まず自分の考えを持つこと、相手とどこが同じでどこが異なるのかに注意を払って聞いてください。授業で紹介した書籍については、本学の図書館を訪れ、司書の先生からカンファレンスを受け、調べたことはノートにメモしてください。
----	---

ナンバリング	17200		科目名	漢文学	
担当教員	小野 春江				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 日本は古来中国の文化・思想・漢字等を取り入れ、日本文化の在り方に大きな影響を受け発展してきた。そこで中国文学を代表する漢詩・漢文から読解力や知識を養い、中国思想の「教え」となることを学び、素養をつけることを目的とする。理解度確認のためミニテスト等を行う。

到達目標 漢詩・漢文の基本的読解力を修得することが出来るようになる。白文に返り点と送り仮名がつけることができるようになる。訓点の読む順番を修得できるようになる。又、音読や暗記ができるようになる。中国の歴史や文化について理解することが出来るようになる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 年間講義内容について 漢文を学習するにあたって ノート使用方法について
- 02 漢文の訓読法及び句法について 高校での漢文の復習
- 03 「春暁」孟浩然 (五言絶句)
- 04 「春夜喜雨」杜甫 (五言絶句)
- 05 「静夜詩」李白 (五言絶句)
- 06 「送元二使安西」王維 (七言絶句)
- 07 「早発白帝城」李白 (七言絶句)
- 08 「望廬山瀑布」李白 (七言絶句)
- 09 「黄鶴桜送孟浩然之広陵」(七言絶句)
- 10 「雑詩」王維 (五言絶句)
- 11 「春夜洛城聞笛」李白 (七言絶句)
- 12 「絶句」杜甫 (五言絶句)
- 13 「春望」杜甫 (七言絶句)
- 14 「秋浦の歌」李白 (五言絶句)

授業時間 【事前学修】

外の学修 ノートに漢文を書き写し意味のわからない漢字を漢和辞典で調べる。
作者や時代背景について調べる。

【事後学修】

繰り返し暗唱する。疑問や理解不足等があれば辞典・事典・参考文献等で調べ次回の授業で質問する。
学修目安時間は合わせて4時間とする。

評価方法 定期試験（40％）朗唱（20％）提出物等（20％）授業中の取り組み（20％）を含めて総合的に評価する。

アクティブ
ラーニング 訓読・音読・群読をする。
疑問点・問題点を挙げる。
グループ学習
ノート整理（後日提出）

フィード
バック 質問等に適格に応える。
ノート提出にはコメントを付して返却する。
ミニテスト・答案用紙にはコメントを付して返却する。

実務経験

教科書 プリント使用

参考書 『唐詩選通解』清雅堂 『岩波文庫・唐詩選』 高校で使用の『国語便覧』
『朗唱漢詩漢文』全国漢文教育学会編 東洋館出版社
漢和辞典 『新字源』角川書店

備考

ナンバリング	18212		科目名	書物論1/4期
担当教員	金子 未佳			
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☒ 選択 (司)	

授業概要 書物の歴史を遡り、様々な書物の媒体について理解を深めていきます。
折本や布装本など、いくつかの形態の書物を実際に作ります。
くずし字を読む基礎的技術を身に付けることを目標とします。

到達目標 (1)書物の歴史と形態について学べます。
(2)製本技術が身に付きます。
(3)基礎的なくずし字の読み方を習得します。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、書物史概説（世界）
- 02 書物史概説（日本）、見立番付を読む
- 03 綴本とは、一折中綴じ本を作る
- 04 卷子本とは、卷子本を作る
- 05 折本とは、折本を作る
- 06 美しき装幀の世界、布装本を作る(1)材料選び、表紙作り
- 07 布装本を作る(2)花布、しおり紐を貼る、背を補強する
- 08 布装本を作る(3)表紙と本文を合わせる、見返しを貼る
- 09
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14

授業時間	【事前学修】
外の学修	書物に関する理解を深めるため、授業内で紹介する参考書を読むとともに、できるだけ多くの博物館施設を見学し、古典籍資料を見る機会を作ること。（約1時間）
	【事後学修】
	レジュメや配布資料を見直し、そのなかで興味を持った内容について、図書やインターネット等で調べ、理解を深める。（約1時間）
評価方法	授業の取り組み・提出物（30％）、製作課題（40％）、最終レポート（30％）
アクティブ ラーニング	ミニッツペーパー、グループワーク
フィード バック	ミニッツペーパーへの応答。 製作課題や授業内の取り組みに関する個別助言及び全体講評のフィードバック。
実務経験	
教科書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
参考書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
備考	教材費として1人1,200円を徴収します。 製作課題は個別に助言を行い、全体共有することで、より理解を深めます。 授業終了時にミニッツペーパーの提出があります。コメントを記して返却します。 ある程度手先の器用さが求められます（カッターを使って紙を切る、定規を使ってまっすぐに線を引く、針と糸を使って縫う、など）。 手先が器用な人は周りの進捗状況に配慮し、作業が遅い人の補助に回るように協力してください。 製作工程の都合上、2回の授業を連続で行う場合があります。 各製作課題が授業時間内に完成しない場合（欠席を含む）は、次回までに各自で完成させてください。1つでも未完成の製作課題がある場合は、単位を取得できないことがあります。

ナンバリング	18200		科目名	漫画の世界		
担当教員	横井 三步					
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 漫画の表現技法や産業面での役割について、座学と制作の両面から学びます。

到達目標 1.漫画とデザインに関する基礎的な知識を習得します。
2.感性を言語化し、人に伝える力を養います。
3.様々な作品を楽しむ広い視野を身に付けます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 イントロダクション：漫画とはなにか
講座の内容と授業形式の紹介
簡単な課題を通して授業で使うツールを使い方を学ぶ
- 02 イントロダクション：漫画とはなにか
〃
- 03 漫画とキャラクター (1)
キャラクターは漫画を語るうえで最も重要な要素であること
キャラクターデザインについて、座学と制作の両面から学ぶ
- 04 漫画とキャラクター (2)
〃
- 05 漫画と視覚表現 (1)
色彩と構図は漫画表現に欠かせないことから、プロの作家がどのような技術を使っているのか、作品研究を通して学ぶ
- 06 漫画と視覚表現 (2)
〃
- 07 漫画と物語表現 (1)
魅力的なストーリーとは何か座学と制作の両面から学ぶ

08 漫画と物語表現 (2)

〃

09 漫画と社会 (1)

漫画はエンターテインメントの面が強調されがちであるが、広告や教育・学習面でも漫画は大きな存在であるため、漫画と社会の繋がりについて学ぶ

10 漫画と社会 (2)

〃

11 漫画と産業 (1)

漫画を含むエンターテインメント分野は、日本の主力産業のひとつであるため、産業という面に注目して漫画について学ぶ

12 漫画と産業 (2)

〃

13 漫画ビブリオバトル (1)

これまでの学習を踏まえてマンガを分析し、受講生自身がオススメする作品についてプレゼンテーションをする

14 漫画ビブリオバトル (2)

〃

15 漫画の世界

授業時間 【事前学修】

外の学修 漫画や漫画原作のアニメ作品に興味を持ち、作品に触れる機会を設けてください。(2時間～)

【事後学修】

ワークシートの復習などで振り返りを行い、学習内容の定着を目指しましょう (1時間～)

学習内容を反映して作品を分析し、レポート執筆を行います (1, 2時間)

評価方法 授業課題のワークシート：60%
最終課題レポート：40%

アクティブ ラーニング googolスプレッドシートを用いて、毎回ミニワークを行います。ミニワークでは自分の考えを言語化する力を養います。

フィードバック ワークシートを確認しながら、その都度フィードバックを行います。
言葉にするのがあまり得意でない方もサポートしますので安心して参加してください。無理なく段階的に取り組めるように進めます。

実務経験 ○ プロのマンガ家として、雑誌や書籍などで20年以上活動してきた現役のクリエイターです。
マンガの他にもイラスト、デザイン制作、アニメ、ゲーム、記事執筆など幅広い分野で活動しています。

教科書 特になし

参考書 特になし

備考 学習進度によって内容が変更になる場合があります。

ナンバリング	13100		科目名	地域文化論	
担当教員	表現文化学科教員/塙 雅文				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 地域の文化を学び、その知識を次世代へと伝えられることを目標とします。
地域の文化施設を訪れ、地域社会への理解を深めるとともに、歴史に触れたり、音楽・美術・演劇を鑑賞し、地域に根差したスポーツチームの試合を観戦することで、感性を磨き、こころを養います。
ボランティア活動を行います。

到達目標 (1)地域の文化を理解することができます。
(2)身近な施設を訪れることで、地域とのつながりを意識し、地域への誇りと愛着を深められます。
(3)歴史や芸術に触れることで、豊かな人間性と創造力を育むことができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針** ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 佐川文庫で音楽を鑑賞する
- 02 佐川文庫で音楽を鑑賞し、レポートを書く
- 03 ザ・ヒロサワ・シティ会館で音楽を鑑賞する
- 04 ザ・ヒロサワ・シティ会館で音楽を鑑賞し、レポートを書く
- 05 水戸芸術館の展覧会を鑑賞し、レポートを書く
- 06 地域に根差したスポーツチームの試合を観戦する
- 07 地域に根差したスポーツチームの試合を観戦し、レポートを書く
- 08 茨城県立歴史館で展覧会を鑑賞し、レポートを書く
- 09 茨城県近代美術館で展覧会を鑑賞し、レポートを書く
- 10 水戸芸術館の館内ツアーに参加し、レポートを書く
- 11 水戸芸術館の舞台稽古を見学し、レポートを書く
- 12 水戸芸術館で演劇を鑑賞する
- 13 水戸芸術館で演劇を鑑賞し、レポートを書く

14 ボランティア活動を行う

15 ボランティア活動を行い、レポートを書く

授業時間 【事前学修】

外の学修 日頃から地域の歴史・文化や音楽・美術・演劇などの芸術作品やスポーツ観戦に親しみ、感想をノートにまとめておく。学修の目安は約2時間とする。

【事後学修】

授業で触れた作品やエピソードなどについて図書館やインターネットで調べ、理解を深める。友人と感想を語り合い、様々な見方や考え方に触れる。学修の目安は約2時間とする。

評価方法 活動への取り組み（50%）、レポート（50%）
レポートの評価基準
1 字数を守ることができている。（20%）
2 内容がテーマに即して適切である。（50%）
3 論理的にわかりやすく考察している。（30%）

アクティブ ラーニング フィールドワーク、プレゼンテーション、計画的体験授業

フィードバック レポートを提出後、コメントを記入して返却する。

実務経験

教科書 なし

参考書 なし

備考 展覧会や音楽会などの開催期間・日時によって、各回の順番や授業内容を変更する場合があります。
授業中に課したレポートは、教員がコメントを記入して返却します。
グループ活動を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。

ナンバリング	11242		科目名	日本文化	
担当教員	金子 未佳				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼)	☐ 選択必修 (保) ☒ 選択 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☒ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 選択 (司)	

授業概要 上代から現代までの日本文化を概観します。日本文化の今と昔を学ぶことで、現代を生きる自分を見つめ直し、日本人のこころを養います。出版文化の歴史を学ぶとともに、和綴じ本やミニ掛け軸を作ります。また、近代以降の子どもや女性の生き方、ライフスタイルの変化について理解を深めます。

到達目標

- (1)日本文化の基礎知識が身に付きます。
- (2)和綴じ本の製本方法を習得できます。
- (3)近代以降の子どもと女性に関する文化を学ぶことができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針**
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、日本文化とは何か、元号のはじまり
- 02 暦ー日本のこよみ・絵暦ー
- 03 日本人と犬
- 04 絵巻物の世界(1)日本四大絵巻とは
- 05 絵巻物の世界(2)『鳥獣人物戯画絵巻（鳥獣戯画）』（甲巻）を読み解く
- 06 小テスト(1)、日本美術に親しむー鑑賞入門、ミニ掛け軸作りー
- 07 日本の文学・出版文化ー近世を中心にー
- 08 和綴じ本を作る(1)表紙作り
- 09 和綴じ本を作る(2)四つ目綴じ
- 10 病と災害の文化史ー「疱瘡絵」「麻疹絵」「コレラ絵」「鯰絵」ー
- 11 小テスト(2)、竹久夢二「東京災難画信」にみる関東大震災
- 12 近代の子どもと文化ー唱歌・童謡のはじまりと童謡詩人・童画家たちー
- 13 女子教育と女学生文化
- 14 日本の化粧文化

授業時間	【事前学修】
外の学修	・教科書で各時代の日本文化の流れを理解する。 ・日本文化に関する新聞記事に目を通しておく。 ・日頃より両親や祖父母、異世代の人々と話し合う機会を持ち、それぞれの世代の生活や文化について理解を深める。（約2時間）
	【事後学修】
	・授業のレジュメや配布資料を見直し、そのなかで興味を持った内容について、図書やインターネット等で調べ、理解を深める。 ・博物館施設を積極的に訪れ、展示資料や作品を観覧する（様々な博物館施設のウェブサイトを積極的に活用する）。 （約2時間）
評価方法	小テスト3回（授業の理解を確認するためのもの）（40%）、課題（提出物・発表）・授業への取り組み（30%）、期末レポート（30%） レポートの評価基準 1 字数を守ることができている。（10%） 2 誤字脱字がなく、表現が適切である。（20%） 3 内容がテーマに即して適切である。（25%） 4 論理的にわかりやすく考察している。（25%） 5 引用文献や参考文献を正しく記載している。（20%）
アクティブ ラーニング	ミニッツペーパー、グループワーク、映像活用学習
フィード バック	ミニッツペーパーへの応答。 提出物の評価、小テスト（3回実施）への全体講評。
実務経験	○ 博物館施設での実務経験を活かし、展覧会図録や歴史資料を用いながら、日本文化に親しめるようわかりやすい授業を行う。
教科書	詳説日本史図録編集委員会編『詳説日本史図録 第10版』（山川出版社、2023）
参考書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
備考	「和綴じ本を作る」の教材費として、1人100円程度を徴収する予定です。 授業終わりにミニッツペーパーの提出があります。コメントを記して返却します。 課題（提出物・発表）は、受講者全員で共有を図ります。 授業内で実施する演習課題には、個別に助言・指導を行います。 小テストにおいては、全体講評のフィードバックを行います。

ナンバリング	12211		科目名	子どもと読書	
担当教員	小林和子				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 世界の代表的な童話について学び、日本の児童文学の歴史を学びます。そして図書館でいろいろな児童文学や絵本を實際手に取って学び、個性的な児童文学や絵本の世界を実感します。そのうえでグループワークでの読み聞かせの実践と、ブックレビューの作成や本の帯の作成も行います。

到達目標 (1)児童文学の歴史を知ることができます。
 (2)絵本への関心を深めるとともに、子どもの発達に合った絵本を選び、読み方を工夫することができます。
 (3)ブックレビューの作成を学べます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 児童文学（童話）や絵本について
- 02 世界の代表的な童話について—イソップ童話、グリム童話、アンデルセン童話、ディズニー童話
- 03 日本古典文学の中の御伽噺や絵本の歴史について
- 04 日本近代文学の児童文学の歴史—「赤い鳥」の時代について
- 05 金子みすゞの童謡詩について
- 06 北原白秋、西條八十、野口雨情らの童謡詩について
- 07 小川未明、新実南吉などの児童文学について
- 08 本学図書館における絵本探索実施
- 09 3歳児4歳児の絵本について（グループワーク）
- 10 5歳児6歳児の絵本について（グループワーク）
- 11 小学校低学年向けの児童書について（グループワーク）
- 12 小学校高学年向けの児童書について（グループワーク）
- 13 安野光雅、いわむらかずお、ヨシタケシンスケの世界
- 14 図書館展示(1)ブックレビューの作成

授業時間 【事前学修】

外の学修 出来るだけ多くの絵本を読んでおくこと。読み聞かせて紹介したい絵本を選ぶ。現在、どのような絵本が人気なのか、書店や図書館などで情報を集める。

【事後学修】

授業で紹介した絵本のうち、知らなかった絵本については読んでおくこと。発表を担当する際には、事前によく調べ、練習をするなど、責任を持って準備すること。確認小テスト、授業で扱った作品を必ず読み返すこと。

事前事後学修の目安は合計4時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み（40%）、課題発表・提出物（60%）

アクティブ ラーニング グループワークと図書館での絵本の探書、朗読や読み聞かせ体験を経験します。

フィードバック 地域の図書館で授業で扱った童話や絵本がどれくらい収集されているか確認する

実務経験

教科書 なし 授業中に適宜プリントを配布します。

参考書 なし

備考 ワークシートへの記入や予習課題への取り組み、グループ内での積極的な発言を求めます。授業内での発表や提出課題について、その都度、フィードバックを行います。

ナンバリング	11100		科目名	表現入門	
担当教員	長谷川 裕久				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 言葉と身体を伴う舞台俳優の表現方法とは何かを、映像資料やディスカッションを通し実際に体験することで理解を深める。

到達目標 (1)舞台作品を鑑賞し自分の言葉で表現の特徴について解説できる。
(2)言葉と体をつかって、テキストの内容を他者に伝えることができる。
(3)他者と共同し、ひとつのものを表現できる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 シアターゲーム1 即興について
- 02 シアターゲーム2 グループでの即興劇
- 03 様々な身体1 立つということ 一人で 二人で 皆で
- 04 様々な身体2 座るとということ 一人で 二人で 皆で
- 05 様々な身体3 歩くという動作 一人で 二人で 皆で 集団で
- 06 様々な身体4 止まるという動作
- 07 様々な声1 呼吸法の種類
- 08 様々な声2 発声法の種類
- 09 様々な演技1 古典劇の身体
- 10 様々な演技2 現代劇の身体
- 11 演じてみる1 対話するということ
- 12 演じてみる2 会話と対話の相違とは何か
- 13 演じてみる3 朗読 一人で読む 皆で読む
- 14 身体訓練の応用 朗読から朗読劇へ
- 15 成果発表 互評・講評

授業時間	【事前学修】
外の学修	継続して身体の特訓を行うこと。テキストの読みを調べる。音読をする。学修の目安は2時間程度とする。
	【事後学修】
	劇場や映像資料等で舞台作品に積極的にふれる。
	授業中に配布した資料等を読み返し整理、ファイリングする。
	学修の目安は1時間程度とする。
評価方法	授業への取り組み（30%）課題の発表（30%）提出物（20%） 定期試験（20%）
アクティブ ラーニング	ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティ ブ・セッション 映像活用学習
フィード バック	課題の発表について、個別のフィードバックを行う。
実務経験	○ 公共劇場での劇作・演出・俳優の経験を生かし実践的に指導を行う。
教科書	特になし
参考書	資料等はその都度配布します。
備考	授業終わりに感想や質問等の提出があります。質問事項に関しては次授業時間に解説の時間をとります。 授業は動きやすい服装で臨むこと。

ナンバリング	12100		科目名	戯曲に親しむ	
担当教員	長谷川 裕久				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 総合芸術である演劇の「言葉」が、どのように生まれ、発展し、現代に受け継がれてきたかを映像資料や自ら体験することで学び、「戯曲」表現の多様さを通して、「言葉」の豊かさと楽しさを学ぶ。

到達目標 (1)プリントや映像等の資料を使って、戯曲の歴史を説明できる。
(2)舞台作品を鑑賞し、自分の言葉で感想が述べられる。
(3)戯曲を読み理解し、解釈を経て自ら表現できる。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 戯曲とはなにか 演劇を構成する古今東西の「言葉」たち
- 02 ギリシャ悲劇1 演劇の発生と古代の表現
- 03 ギリシャ悲劇2 悲劇を構成するものと三大悲劇作家
- 04 中世・ルネッサンス演劇とシェイクスピア1
4大悲劇入門
- 05 中世・ルネッサンス演劇とシェイクスピア2
シェイクスピアの名作『ハムレット』を読む
- 06 中世・ルネッサンス演劇とシェイクスピア3
映像による舞台鑑賞『ロミオとジュリエット』1
- 07 中世・ルネッサンス演劇とシェイクスピア4
映像による舞台鑑賞『ロミオとジュリエット』2
舞台を論評しよう
- 08 近代演劇の父 ヘンリック・イブセンを読む1
イブセンの時代ー近代劇とは何か？
- 09 近代演劇の父 ヘンリック・イブセンを読む2
「人形の家」を読み解く
- 10 不条理演劇から現代演劇1

ピランデルロからベケットへ

- 11 不条理演劇から現代演劇2
ハロルド・ピンターの言葉
- 12 戯曲を書いてみよう1 独白・ひとりごと いつ話す？
- 13 戯曲を書いてみよう2 挨拶 誰と話す？
- 14 戯曲を書いてみよう3 会話 何を話す？
- 15 戯曲を書いてみよう4 対話 何について話す？

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業前に提示した戯曲、参考書等はそれぞれが読んでおくこと。暗記が必要なものは必ず暗記しておくこと。
劇場やインターネット、DVD等で積極的に舞台表現に触れること。また、感想等を記しておくようにする。
時間外学修の目安は2時間程度とする。

【事後学修】

授業中に配布した資料等を読み返し、ファイル等に整理保存しておくこと。
授業で紹介した映像資料などは積極的に鑑賞すること。時間外学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 授業内小テスト(30%) 提出物(20%) 授業への取り組み(30%) 定期試験 (20%)

アクティブ
ラーニング 映像活用学習 ミニツッペーパー グループディスカッション

フィード
バック 授業内小発表での講評において、全体でのフィードバックを行う。
ミニツッペーパーについて、提出された質問をフィードバックする。

実務経験 ○ 公共劇場での舞台制作、劇作、演出、俳優経験を生かし舞台芸術の歴史・戯曲解釈・俳優術の開設をを
具体例を踏まえて行う。

教科書 特になし

参考書 適時紹介します。

備考 授業終わりにミニツッペーパー（コメント、質問等）の提出があります。質問事項については次時間に解説
します。

ナンバリング	12100		科目名	身体表現基礎		
担当教員	平松 み紀					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習	
区分	☒ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 身体表現に必要な身体のしくみをストレッチの中で学び、音楽に合わせて身体を動かしたり即興活動を実践し、「自由に表現できる身体」を修得する授業です。また、ペア・グループワークを行う小作品の創作では発表からディスカッションへとつなげてお互いの個性を認め合う価値観を育みます。

到達目標 (1)身体のしくみについて説明ができます。(2)人前で作品を発表することで表現力を磨きます。(3)他者と協力することでコミュニケーション能力を向上することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス・自己紹介（自分の興味を持っていることを発表する。）
- 02 骨格について学びストレッチを行う・ウォーミングアップ・即興テーマ「自分の身体を知る」（触覚）振り返りを行う。
- 03 筋肉について学びストレッチを行う・ウォーミングアップ・課題①「お名前ダンス」創作方法を学ぶ。振り返りを行う。
- 04 呼吸について学びストレッチを行う・「お名前ダンス」自分の動きをつくる。発表後、フィードバックを行う。
- 05 ウォーミングアップ・「お名前ダンス」ソロ・デュオ又はグループの作業を行う。発表・鑑賞・ディスカッション・フィードバックを行う。
- 06 ヨガ・ピラティス・各種のダンスメソッド・即興を学ぶ。
- 07 課題②グループワーク「自然を感じることから」フィールドワークで素材を探してプレゼンテーションを行う。
- 08 グループワーク「自然を感じることから」素材から動きをつくる。振り返りを行う。
- 09 グループワーク「自然を感じることから」動きを構成してグループ内でディスカッションを繰り返し小作品にする。
- 10 グループワーク「自然を感じることから」練習・発表・振り返りを行う。
- 11 ストレッチ・ウォーミングアップ・課題③「ひとりでダンス」振付を覚える。
- 12 「ひとりでダンス」8×2カウントの創作を行う。振り返りを行う。
- 13 「ひとりでダンス」練習・発表・コンテンポラリーダンスの構成方法を学ぶ。

- 14 授業のまとめを始める。全ての要素を構成して即興を学びながらディスカッションを繰り返し作品完成を目指す。
- 15 授業のまとめとなる作品発表・鑑賞・ディスカッション・フィードバックを行う。

授業時間 【事前学修】

外の学修 身体関節などを学習しノートにまとめる。

創作テーマを深めるために媒体などで調べる。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

授業で習ったストレッチや動きを自宅で練習する。学修の目安は約2時間程度とする。

評価方法 課題①②③の達成度60% 授業への取り組み40%

アクティブ ラーニング グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク

フィードバック 全体講評でフィードバックします。

実務経験 水戸芸術館専属舞踊家として12年間活動。コンテンポラリーダンスの基本理念は共同作業でありコミュニケーション能力を養うことができる。

教科書 なし

参考書 なし

備考 授業内で発表した小作品についてディスカッションし、その都度フィードバックを行います。

ナンバリング	11200		科目名	書道I	
担当教員	小野春江				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 芸術はいつの時代にも人の心を豊かにし、さまざまな文化を形成する。中国の先人の言葉に「文字は書いた人の心が現れたものである」とあるように、書は心の学問である。文字を素材として筆者の心象や、人間性を表現する造形芸術であり、筆者の人間性や精神が深くかかわっているものである。

(1)現代社会に対応できるような書の基本を授業展開とする。(2)身近にある文字に関心を持ち、実用性と芸術性の双方をふまえる。(3)人間形成に役立つ書道文化の基本的な臨書や創作及び書作品の鑑賞を行なう。(4)講義を8回、演習を7回とする

到達目標 (1)正確で整った文字を書く能力が身につきます。(2)に対する理解と鑑賞力が身につきます。(3)通して理念と礼儀を会得することが出来ます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針** ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 講義 授業に当たっての心得 (1)書は文字を素材とする造形芸術(2)筆者の人間性をより豊に表現するための書法(3)中国の書の流れと日本の書の流れ(4)硬筆について
- 02 講義 文字書写の基礎技能 (1)明窓浄机(2)一字を書くには一筆一筆の基本をふまえる(3)伝統書法
- 03 講義 情操の陶冶 (1)倫理的道德的要素を加味する(2)表現技術の向上(3)美的感覚の育成
- 04 講義 楷書の基本 (1)点画の特徴をとらえる(2)書に品格があること(3)筆勢と正しい形態
- 05 講義 楷書の基本 (1)中国古典を中心として、構築的な美や整齊な美(2)古典を中心として、静的な美の表現
- 06 講義 日本古典 (1)三筆・三跡による書と美
- 07 講義 現代書道 (1)芸術性と実用性 硬筆
- 08 講義 臨書とは (1)臨書の三形態について 硬筆
- 09 臨書 (1)九成宮醴泉銘(2)整齊な書の特徴をとらえる臨書 硬筆
- 10 臨書 (1)孟法師碑(2)のびやかで穏やかな書の特徴をとらえる
- 11 臨書 (1)雁塔聖教序(2)軽快な書の特徴をとらえる
- 12 臨書 (1)高貞碑(2)静的な力強さの書風を臨書する

- 13 臨書 (1)高貞碑(2)静的な力強さの書風を臨書する
- 14 臨書 (1)張猛龍碑(2)躍動的な書風を臨書する 硬筆
- 15 創作作品の色紙・篆刻・半切り掛軸等の鑑賞と合評

授業時間 【事前学修】

外の学修 (1)身近にある文字に関心を持つこと。(2)次回の授業で使用する書道用具を確認し、準備しておくこと。(3)課題作品の特徴や技法について学び臨書する。(4)硬筆やミニレポート等の課題を出すこともある。学修の目安は1時間程度とする。

【事後学修】

(1)課題作品を反復練習し臨書する。(2)毛筆や硬筆での手書きの文章を日常生活の中で実践する。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 (1)課題による提出物(30%) (2)創作の提出(半切及び篆刻)(50%)
(3)授業への取り組み(20%)

アクティブ ラーニング 調査学習、体験学習、合評会

フィードバック 提出物については、毎回添削指導し、返却する。

実務経験

教科書 書の古典と理論 全国大学書道学会 光村図書出版株式会社

参考書 なし

備考 課題作品については、授業内で添削します。合評会も行います。清書を仕上げて提出した作品は、翌週に添削・評価を加えて返却し、全体的な講評をします。特に良い作品は、学内に展示します。半切や篆刻の作品は、本学の学園祭に展示します。

ナンバリング	12200		科目名	書道II	
担当教員	小野春江				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 芸術はいつの時代にも人の心を豊かにし、さまざまな文化を形成する。中国の先人の言葉に「文字は書いた人の心が現れたものである」とあるように、書は心の学問である。文字を素材として筆者の心象や、人間性を表現する造形芸術であり、筆者の人間性や精神が深くかかわっているものである。

(1)現代社会に対応できるような書の基本を授業展開とする。(2)身近にある文字に関心を持ち、実用性と芸術性の双方をふまえる。(3)人間形成に役立つ書道文化の基本的な臨書や創作及び書作品の鑑賞を行なう。(4)講義を8回、演習を7回とする。

到達目標 (1) 半切での創作を会得することが出来ます。(2) 篆刻の創作を会得することが出来ます。(3) 書の創作を通して人間性を高めることが出来ます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針** ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
- ☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
- ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
- ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 講義篆刻 (1)書との共通を理解(2)造形と線の美を追求(3)落款印創作解題(4)硬筆について
- 02 創作その1 (1)書との共通を理解(2)造形と線の美を追求(3)落款印の創作(4)硬筆
- 03 創作その2 (1)篆刻(2)書との共通を理解(3)造形と線の美を追求(4)落款印の創作(5)硬筆
- 04 講義行書の基本 (1)行書の筆順(2)行書の字形(3)楷草中間の書(4)硬筆
- 05 講義臨書 (1)蘭亭序その1(2)内蔵されるさまざまな行書の筆使いや字形の変化
- 06 講義臨書 (1)蘭亭序その2(2)内蔵されるさまざまな行書の筆使いや字形の変化を臨書する
- 07 講義 (1)興福寺断碑その1(2)気脈の連なり(3)不自然を感じさせない特徴
- 08 臨書 (1)興福寺断碑その2(2)気脈の連なり(3)不自然を感じさせない特徴
- 09 講義 創作の前に(1)半切掛軸について
- 10 創作 (1)半切掛軸を書く
- 11 創作 (1)半切掛軸を書く
- 12 講義 百人一首(1)書風の変遷(2)変体仮名の読み方と連綿について(3)読み手となり、とり手となる(4)鑑賞
- 13 講義 (1)創作した篆刻と掛軸を鑑賞(2)創作の相互評価(3)創作の反省点

14 講義 かなの基本を学ぶ(1)近代詩文を書く(2)字形の基礎的表現(3)自己表現の創意工夫

15 創作作品の色紙・篆刻・半切り掛軸等の鑑賞と合評

授業時間 【事前学修】

外の学修 (1)課題作品の創作内容を前もって把握し、構想して置く。(2)課題作品の特徴や技法について学ぶ。(3)書道用語や意味を学習して置く。学修の目安は1時間程度とする。

【事後学修】

(1)課題作品の反復練習。(2)身近にある手書き文字について調べるミニレポートの課題を出すこともあります。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 (1) 課題による提出物(30%) (2)創作の提出(半切及び篆刻)(50%)
(3)授業への取り組み(20%)

アクティブラーニング 調査学習、体験学習、合評会

フィードバック 提出物については、毎回添削指導し返却する。
良い作品については、展示等を行う。

実務経験

教科書 書の古典と理論 全国大学書道学会 光村図書出版株式会社

参考書 なし

備考 課題作品については、授業内で添削します。合評会も行います。完成して提出した作品は、翌週に添削・評価して返却します。全体的な講評をします。特に良い作品は、学内に展示します。半切や篆刻は、学園祭に展示します。
書道の講義と演習を通して中国と日本文化のすばらしさを身に付けることが出来ます。皆さんの積極的な授業への参加を期待します。

ナンバリング	11211		科目名	図書館概論	
担当教員	金子 未佳				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 司書課程の導入科目として、図書館情報学の基礎について概説し、「図書館とは何か」を理解することを目的とします。

到達目標 (1)図書館情報学の基礎を学ぶとともに、図書館員の仕事内容を把握することができます。
(2)館種による図書館の役割の違いを理解できます。
(3)図書館展示の方法を実践を通して学びます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☐ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、図書館概論を学ぶということ
- 02 図書館に関する基礎知識(1)図書館と図書館員
- 03 図書館に関する基礎知識(2)日本十進分類法
- 04 小テスト(1)、図書館イベント企画立案、チラシ作成
- 05 図書館イベント発表、投票
- 06 図書館とその歴史
- 07 図書館の機能とサービス
- 08 小テスト(2)、公共図書館
- 09 公共図書館以外の各種図書館(1)国立図書館
- 10 公共図書館以外の各種図書館(2)学校図書館、大学図書館
- 11 小テスト(3)、図書館展示(1)展示計画
- 12 図書館展示(2)POP作成・展示作業
- 13 公共図書館以外の各種図書館(3)専門図書館
- 14 公共図書館以外の各種図書館(4)同種施設および類縁機関組織としての図書館

授業時間	【事前学修】
外の学修	・近くの公共図書館だけではなく、様々な館種の図書館へ足を運び、図書館の利用方法、図書館員の業務内容、館内の配置、イベント、配布物など、館による違いを知る。 ・図書館のウェブサイトを実際に活用する。 ・教科書に目を通しておく。(約2時間)
	【事後学修】
	・授業のレジュメや配布資料を見直し、興味を持った内容について図書やインターネット等で調べ、理解を深める。 ・図書館開催のイベントへ積極的に参加する。(約2時間)
評価方法	小テスト4回(授業の理解を確認するためのもの)(30%)、課題(提出物・発表・中間レポート・展示)・授業への取り組み(30%)、定期試験(40%)
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、グループワーク
フィードバック	ミニッツペーパーへの応答。授業内に課した発表や提出物についての個別助言及び全体講評のフィードバック。
実務経験	○ 公共図書館及び専門図書館での図書館司書としての実務経験を活かし、館種別の図書館の役割や図書館司書の職務等、実践的指導を行う。
教科書	高山正也・植松貞夫監修 高山正也他編著 『改訂 図書館概論 現代図書館情報学シリーズ…1』(樹村房、2017)
参考書	なし 授業中に適宜プリントを配布します。
備考	「図書館展示」「図書館イベント・ワークショップ演習」の教材費として1人300円程度を徴収する予定です。 授業内に課した発表や提出物については個別に助言を行うとともに、全体講評のフィードバックを行います。 授業終了時に、ミニッツペーパーの提出があります。コメントを記して返却します。 図書館展示等、グループ活動を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。

ナンバリング	11241		科目名	秘書学概論		
担当教員	周藤 亜矢子					
年度	2026		年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☒ 選択 (卒) ☐ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☒ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☒ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 上級秘書士、上級秘書士（メディカル秘書）の必修科目である。秘書を含むビジネスパーソンとして必要な知識、思考や行動に必要な基礎を修得する。授業内では調査結果のプレゼンテーションも行い考察の共有を図る。ねらいは次の2点

(1)組織・秘書とは何かを把握できる

(2)秘書業務の基本的知識を理解し、実践につなげることができる

到達目標

(1)組織やリーダーが求める秘書の役割について理解できる

(2)組織で求められる役割において、複数のパターンを導くことができる

(3)組織の一員として責任感を持ち行動ができる

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 授業目標と授業計画
- 02 秘書の歴史と社会環境の変化
- 03 組織とは何か
- 04 企業とCSR、コーポレートガバナンス
- 05 企業調査
- 06 企業調査プレゼンテーション
- 07 G7・GDP
- 08 仕事における職務と目的
- 09 情報管理と情報リテラシー
- 10 異文化理解
- 11 グローバル化するビジネス社会
- 12 企業リーダー調査
- 13 企業リーダー調査プレゼンテーション

14 新時代のビジネス社会

15 ビジネス界におけるキャリア

授業時間 【事前学修】

外の学修 次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語を調べる（30分/毎）日常のニュースに興味関心を持ち、世界や社会の動きを把握する（30分/毎）実存する日本の企業がグローバル企業としてどのような取り組みを行っているか調査する（2時間）

【事後学修】

テキストや授業で配布されたプリントを復習し、分からなかったところを再度学習する（1時間/毎）

評価方法 調査発表（30%×2回）、ミニッツレポート（20%）、授業への取り組み（20%）
授業時間数1/3以上の欠席者は評価の対象とならない

アクティブラーニング グループ学習、グループディスカッション

フィードバック 課題における調査発表について、フィードバックを行う

実務経験 ○ 大手企業にて重役秘書としての実務経験を活かし、組織の機能・働き方を講義する

教科書 教科書は指定しない。適宜資料を配布する

参考書 授業の中で紹介する

備考 秘書検定試験の受験を推奨する

ナンバリング	17211		科目名	図書館情報技術論	
担当教員	吉村 風				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 図書や雑誌等は「情報」が集められた「資源」、「情報資源」と呼びます。また、インターネット上を駆け巡る「文字」、「音声」、「画像」も「情報」であり、それらをまとめたポータルサイトやデータベースも「情報資源」と呼べます。

図書館は「図書」を集めて提供する「館」から「情報資源」を集めたり整理して、使いやすいかたちで提供する仕組みにシフトしています。

図書館員も「情報資源」を自在に操れる「インフォプロ」にシフトしています。

本科目では特に電子的な「情報資源」にアクセスし操ることができるようになることを学びます。

到達目標 図書館員として求められるICTスキルの基礎が身につきます。

図書館員として利用者の求めに応じたICT支援スキルの基礎が身につきます。

図書館員やインフォプロとして求められるスキルを認める「検索技術者検定3級」を受験できるレベルの知識が身につきます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 第1章 コンピュータの基礎
- 02 第2章 ネットワークの基礎
- 03 第3章 情報技術と社会・法律
- 04 第4章 データベースの仕組み
- 05 第5章 サーチエンジンの仕組み
- 06 第6章 コンピュータシステムの管理とセキュリティ
- 07 第7章 図書館の業務とICT
- 08 第8章 図書館と電子資料
- 09 第9章 デジタルアーカイブ
- 10 第10章 情報検索の理論と方法

- 11 演習(1)
 - ・インタープリタ言語に触れる。
- 12 演習(2)
 - ・ファイルの圧縮を体験する。
 - ・TCP/IPを体験する。
- 13 演習(3)
 - ・ICタグを体験する。
- 14 演習(4)
 - ・デジタルアーカイブを体験する。
 - ・演算子を用いた検索を体験する。
- 15 まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 次回学ぶ単元について、それに合わせて事前学修するよう努めてください。事前学修することで理解度合いが著しく変化します。毎回2時間程度必要です。

【事後学修】

授業では各章の一部のみトピックス的に取り上げていきます。しかし、教科書内に書かれている内容は全て学んだものとします。(試験範囲にもなります)
事後学修でしっかり学んでください。毎回2時間程度必要です。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ
ラーニング 振り返りフォーム

フィード
バック 授業終了後記入する振り返りフォームに対して、全体共有が必要なものは次回授業開始時に口頭で、個別に回答が必要なものは個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館にて図書・雑誌などの資料の収集・保存・活用に携わった経験を有する教員が、図書館情報資源の種類や特性について講義します。各種電子資料やデジタルアーカイブを含む多様な情報資源への理解を深めます。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 授業のときに紹介します。

備考 後半はコンピュータ演習室で前中盤で実際に学んだ技術に実際に触れます。その際ノートPC (Windows / Mac / Chromebook) をお持ちの方は自分のデバイスで学ぶことで自宅でも復習することが可能です。ぜひインターネットに接続できる状態でお持ちください。

ナンバリング	18211		科目名	情報サービス論	
担当教員	吉村 風				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 図書館における情報サービス（レファレンスサービス、情報検索サービス）について学ぶことで、図書館の主要業務のひとつである情報サービス全般の概念について理解していきます。

到達目標

1. 図書館における情報サービスの意義を理解できます。
2. 司書として身につけるべき最低ラインのレファレンスサービス、情報検索サービス、図書館利用教育、発信型情報サービス等の情報サービス概要を理解できます。
3. 司書が利用者に情報サービスを提供する上で最低限求められる参考図書・データベース等の図書館情報資源について適切なものを選択できます。
4. グループで課題を解決していく癖をつけることで、司書として仕事に就いた時、調査困難なレファレンス課題に対しても協働して対処できるようになります。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 イントロダクション：図書館における情報サービスとは？（図書館における情報サービスの意義）
- 02 第1章 情報サービスとは何か
 - 1 情報社会と情報サービス
 - 2 情報サービスの種類
- 03 第2章 レファレンスサービスの理論と実際
 - 1 レファレンスサービスの原則
 - 2 レファレンス・プロセス
- 04 第3章 情報検索サービスの基礎
 - 1 データベース検索の方法
 - 2 論理演算子を使った検索
 - 3 検索語
- 05 第4章 主なレファレンスツールとその特質（1）書誌データ
 - 1 参考図書、レファレンスツールとは
 - 2 参考図書資料の種類
 - 3 書誌と目録

- 06 第5章 主なレファレンスツールとその特質 (2) 事実データ
 - 1 百科事典を引く
 - 2 言語辞書を引く
 - 3 人物情報を探す
- 07 第6章 インターネット情報の検索
 - 1 検索エンジンの種類
 - 2 論理演算子を用いた検索
 - 3 検索の費用負担
- 08 第7章 書誌作成と発信型情報サービス
- 09 第8章 図書館利用者教育と今後の図書館職員の役割
 - 1 情報リテラシー
 - 2 これからの情報サービスと図書館員
- 10 第4章の演習 (1)
 - ・参考図書を用いて調べる
- 11 第4章の演習 (2)
 - ・書誌と目録
- 12 第5章の演習 (1)
 - ・辞事典を用いて調べる
- 13 第5章の演習 (2) (Web (オープンソース) を用いて)
 - ・人物情報について調べる
 - ・e-Stat、地方自治体のオープンデータを用いて調べる
- 14 第5章の演習 (3)
 - ・地理、歴史情報について調べる
- 15 第6章の演習
 - ・論理演算子を用いた検索を中心に

授業時間 【事前学修】

外の学修 図書館員として働く上で、必要最低限のスキルを付けていく科目です。次回学ぶ単位について、それに合わせて事前学修するよう努めてください。事前学修することで理解度合いが著しく変化します。毎回2時間程度事前学修が必要です。

【事後学修】

授業では大枠を学びます。実際に力をつけるには、図書館やコンピュータを活用して調べたり、実際に触ったりすることで学修できます。それらも含めて試験範囲としますので、毎回2時間程度事後学修が学習が必要です。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ ラーニング 振り返りフォーム、クレイジー8、ICTの活用、自ら学外の図書館へ出向いての学習、問題作成

フィードバック 振り返りフォームについては毎回終了時記入してもらいます。全体共有が必要なものは次回の冒頭に、個別に伝えるべきものは個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館におけるレファレンス等の実務経験を有する教員が、図書館情報サービスの基本的な考え方と実践方法を教授します。利用者支援を通じて、課題解決に資するサービス提供のあり方を学びます。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 都度授業内で紹介していきます。

ナンバリング	17211		科目名	情報資源組織論	
担当教員	吉村 風				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☒ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)		

授業概要 図書館のテクニカルサービスの中で主要なサービスである「情報資源の組織化」について理論と技術の双方からアプローチすることで理解していきます。

- 到達目標
- (1) 情報資源の組織化の概念を理解できます。
 - (2) 書誌に関する概念を理解できます。
 - (3) 目録法の概念とNCR2018の基本的なルールを理解できます。
 - (4) 主題および件名標目の概念とシソーラスやBSH4の基本的な構造を理解できます。
 - (5) 分類法の概念とNDC10の基本的な構造を理解できます。
 - (6) 書誌情報および書誌ユーティリティのしくみを理解できます。
 - (7) 一般図書以外の資料の組織化について理解できます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針
- ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☐ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 情報資源組織化と検索法
・既知検索（ネーム検索）と未知検索（テーマ検索）
書誌コントロール
- 02 目録法総論
- 03 目録規則
- 04 和資料記入の作成(1)
・記述総則および図書の記述
- 05 和資料記入の作成(2)
・アクセス・ポイント（標目）
- 06 主題目録法
- 07 分類配架
- 08 日本十進分類法（Nippon Decimal Classification : NDC）
第1 次区分表（類目表）
第2 次区分表（綱目表）

- 09 日本十進分類法 (Nippon Decimal Classification : NDC)
第3 次区分表・分類表
- 10 「図書記号」法
- 11 書架での配列 (配架)
- 12 書誌ネットワーク
- 13 書誌データ・所蔵データの登録
- 14 目録の維持、管理
- 15 まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業を受ける際、初出の専門用語が多く出てくる科目です。そのため次回講義する章を一読して、解らない用語については『図書館情報学用語辞典』等を図書館やWebで閲覧して事前学修してください。毎回2時間程度要します。

【事後学修】

覚える分量が多い科目ですので、図書館やWebを活用して復習をしっかりと行うようにしてください。毎回2時間程度要します。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ
ラーニング 振り返りフォーム、調査学習

フィード
バック 授業終了後記入するリアクションフォームに対して、全体共有が必要なものは次回授業開始時に口頭で、個別に回答が必要なものは個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館において資料整理・目録作成業務に携わった実務経験を有する教員が、図書館における情報資源組織化の理論と実践的方法を指導します。書誌データや分類・件名付与に関する知識を修得し、情報資源を適切に提供するための能力を養います。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 1. 日本目録規則 2018年版, 日本図書館協会, (2018) (Web版あり)
2. 日本十進分類法 新訂10版, 日本図書館協会, (2015)
3. 基本件名標目表 第4版, 日本図書館協会, (1999)
4. 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編, 図書館情報学用語辞典 第5版, 丸善出版, (2020) (Web版あり)
その他授業内で適宜紹介していきます。図書のみでなく、Webサイト等インターネット上の資料も紹介しますので各自ダウンロードやブックマークを行ってください。

備考

ナンバリング	18212		科目名	図書館基礎特論1/4期	
担当教員	吉村 風				
年度	2026	年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年	単位	☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☐ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☒ 選択 (司)		

授業概要 パスファインダー (pathfinder) は、元々道 (path) を見つけ出し (find) ながら切り拓く人 (-er)「開拓者」、「先駆者」という意味があります。

図書館におけるパスファインダーも情報を取り扱うプロ (インフォプロ) である図書館員が、利用者が「〇〇について知りたい」と思った時に先回りし、道しるべとなるような情報をリーフレットにまとめておくことで、調べやすくするアシスタントとなる道具 (ツール) です。

本科目では、実際に図書館で利用者に提供可能なレベルのパスファインダーを作り上げることを目指します。(第1回から第4回までは毎週、第5回から第8回は2～3週間スパンで授業を進めます。)

到達目標 図書館で利用者に提供されるクオリティのパスファインダーが作れるようになります。

パスファインダー作成を通して、「情報を求めている人のために調べる」、「理解しやすいかたちで人に伝える」、「調査に有効な資料に素早くアクセスできるノウハウを身につける」ことができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - ☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
 - ☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - ☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- ☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- ☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 第Ⅰ部 図書館パスファインダー
- 02 第Ⅱ部 主題分析の応用
- 03 第Ⅲ部 進化する主題検索ツール
- 04 実際に作成するパスファインダーの題材を考える。(実地見学)
- 05 実際に作成するパスファインダーの題材を考える。(図書館での調査)
- 06 パスファインダーの発表 (第1回)
※発表後、フィードバックを踏まえて修正 (宿題)
- 07 パスファインダーの発表 (第2回)
※発表後、フィードバックを踏まえて修正 (宿題)
- 08 パスファインダーの発表 (最終発表)
※発表後、フィードバックを踏まえて修正後提出 (最終成果物)
- 09

10
11
12
13
14
15

授業時間 【事前学修】

外の学修 教科書に時間を割くことよりも実際に作成するために時間を割きます。そのため前半は次回学ぶ「部」の事前学習を行うようにしてください。毎回2時間程度要します。

【事後学修】

特に後半は、授業では概要を学び実際に資料を作成するのは授業外学習時間となります。それを怠ると最終成果物が作成できず、評価外となってしまいます。大変ですが進めるようにしてください。
毎回2時間程度要します。

評価方法 授業への取り組み(含む振り返りフォーム)(50%)
最終課題(50%)

アクティブ
ラーニング プロジェクト・ベースド・ラーニング、振り返りフォーム

フィード
バック 毎回振り返りフォームを取ります。次の回の冒頭で共有すべき内容については全体フィードバックします。
個別に返すべき内容については個別にフィードバックします。

実務経験 ○ 国立国会図書館における実務経験を有する教員が、現代の図書館と地域資料を取り巻く諸課題について講義します。また、学芸員資格を有し、博物館・資料館等の展示協力を携わった経験を踏まえ、他機関との比較や具体的事例を通じて、図書館を含めた社会教育機関の役割や現代的課題について理解を深めます。

教科書 講義内で都度配布する

参考書 各図書館で用意されている「パスファインダー」が最も役に立つ参考書となります。図書館に足を運んだり、Webサイトでパスファインダーを手に入れて学習するようにしてください。

備考 教科書代のほか、調査のために1回現地見学、数回図書館に行くための交通費や文献複写代（実費）がかかります。

ナンバリング	11241		科目名	秘書実務	
担当教員	周藤 亜矢子				
年度	2026	年次	☒ 1 ☐ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 通年	単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（保） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（准）	☐ 必修（司） ☒ 必修（上秘） ☒ 必修（上秘メ） ☐ 選択必修（幼）	☐ 選択必修（保） ☐ 選択（幼） ☐ 選択（保） ☐ 選択（司）

授業概要 上級秘書士・上級秘書士（メディカル秘書）の必修科目である。秘書を含むビジネスパーソンとして必要なスキルおよび知識の基礎力を身につけるための学習プログラム。ねらいは次の3点

- (1)秘書業務、ビジネスマナーの基礎を理解し、身につける
- (2)時間を意識し、効率的な仕事の進め方を計画できる
- (3)言語・非言語の対人コミュニケーション力を身につける

到達目標 (1)秘書業務・ビジネス実務に必要な基本的な知識やスキルを習得できる
 (2)目的を達成するために、環境や状況に応じて計画的に仕事を行うことができる。
 (3)言語・非言語における良好な対人コミュニケーションを図ることができる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 ☒ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 講義概説・評価説明・秘書実務について
- 02 秘書の役割と仕事のサイクル（PDCAサイクル）
- 03 敬語の意味と使い方（敬語の基礎）
- 04 ビジネス現場での言い回し（敬語の応用）
- 05 敬語とビジネスでの会話
- 06 報告・連絡・相談
- 07 コミュニケーションと印象操作
- 08 言語を使わないコミュニケーション
- 09 電話対応の流れと言葉遣い
- 10 電話の特性と注意点、メモの取り方（演習）
- 11 来客対応と応対マナーの基礎
- 12 訪問と訪問のマナーの基礎
- 13 来客対応の上下位とサービス
- 14 応対と訪問のまとめ（演習）

- 15 接遇・電話応対・敬語表現の復習
- 16 仕事の進め方と優先順位
- 17 スケジュール管理の方法と流れ
- 18 アポイントの依頼と受理・変更
- 19 スケジュール作成（演習）
- 20 出張手配の準備と流れ
- 21 旅程表作成（演習）
- 22 会議と会合の種類と準備
- 23 慶弔/弔事の知識とマナー
- 24 慶弔/慶事の知識とマナー
- 25 贈答
- 26 文書作成/社内文書
- 27 文書作成/社外文書
- 28 eメールの作成（就職活動）
- 29 eメールの作成（組織宛）
- 30 本授業全体のまとめ（振り返りと確認）

授業時間	【事前学修】
外の学修	敬語・文書作成・ビジネスメールをトレーニングするための課題を出す(1時間×6回)、予習として次回の授業内容を確認する(0.5時間)
	【事後学修】
	予習として次回の授業内容を確認する(約1時間)
評価方法	授業内の小テスト(50%)、課題提出を含む授業への取り組み(25%)、ミニッツレポート(25%)、授業時間数1/3以上の欠席者は評価の対象とならない
アクティブ ラーニング	グループ学習、PBL、ケーススタディ
フィード バック	授業毎のミニッツペーパーに対して、次の授業の冒頭でフィードバックを行う 小テストについて、解説と全体講評のフィードバックを行う
実務経験	○ 大手企業にて秘書としての実務経験を活かし、実践的な授業を行う
教科書	『バイリンガルオフィスプロの基礎』日本秘書協会 2022年 ISBN 978-4904131190
参考書	授業の中で指定する
備考	

ナンバリング	18231	18261	科目名	メディカル秘書概論		
担当教員	周藤 亜矢子					
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 必修 (音療) ☒ 必修 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼) ☐ 選択 (司)			

授業概要 上級秘書士（メディカル秘書）の必修科目である。メディカル秘書の専門的で実践的な基礎知識とスキルを身につけるための学習プログラムである。ねらいは次の3点
 (1)メディカル秘書の役割・業務内容を学ぶ
 (2)医療基本用語を理解できる
 (3)医療制度を理解できる

到達目標 (1)医療機関における組織を理解し、メディカル秘書業務の役割と業務内容を説明できる
 (2)医療基本用語を理解し説明できる
 (3)医療における制度を理解し説明できる

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 講義概説・評価説明
- 02 医療とは
- 03 医療機関の組織 グループワーク
- 04 医療機関の経営 グループワーク
- 05 医療界の現状
- 06 医療保険制度
- 07 医療制度の特徴
- 08 医療秘書の役割と機能
- 09 医療秘書に求められている能力
- 10 病院、診療所での医療秘書
- 11 医療秘書の業務 情報管理
- 12 医療秘書に求められるコミュニケーション (1) 傾聴
グループワーク

- 13 医療秘書に求められるコミュニケーション（２）話す
グループワーク
- 14 医療秘書の将来
- 15 医療秘書に求められる資質のまとめ

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- (1)事前課題（毎回2時間）
 - (2)調査レポート（7.5時間）
 - (3)単元小テストのための学習（7.5時間）

【事後学修】

- (1)授業毎の復習（毎回1時間）
-

評価方法 小テスト（50％）、レポート（25％）、ミニッツペーパーを含む授業への取り組み（25％）

アクティブ
ラーニング シンク・ペア・シェア方式、ミニッツペーパー、ブレイン・ストーミング、復習テスト

フィード
バック 授業内レポートについて個別フィードバック、小テストでの全体講評を行う

実務経験 ○ 企業での秘書業務の経験から、組織の機能・働き方を講義する

教科書 『改訂 医療秘書』医療秘書教育全国協議会編、建帛社、2021年、ISBN 978-4-7679-3737-3

参考書 なし

備考 レポートの評価基準。

1. 字数や提出期限を守ることができている（10％）
2. 誤字脱字がなく、表現が適切である。（10％）
3. 内容が適切である。（30％）
4. 論理的な展開である。（20％）
5. 考察が十分である。（30％）

ナンバリング	18231	18262	科目名	メディカル秘書実務		
担当教員	周藤 亜矢子					
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科	☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法	☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修 (卒) ☐ 選択必修 (卒) ☐ 選択 (卒) ☒ 選択	資格関連	☐ 必修 (幼) ☐ 必修 (司) ☐ 必修 (保) ☐ 必修 (上秘) ☐ 必修 (音療) ☒ 必修 (上秘メ) ☐ 必修 (准) ☐ 選択必修 (幼)	☐ 選択必修 (保) ☐ 選択 (上秘) ☐ 選択 (幼) ☐ 選択 (上秘メ) ☐ 選択 (保) ☐ 選択 (音療) ☐ 選択 (司)		

授業概要 上級秘書士（メディカル秘書）の必修科目である。医療現場における対応能力を身につける学習プログラムである。ねらいは3点
 (1)医療秘書の実践の側面を細分化し、医療現場に則したスキルを習得できる
 (2)専門職としての実務スキルを学び、演習を通して理解を深め実践につなげる
 (3)患者やその家族の気持ちを理解できる

到達目標 (1)医療現場の秘書業務を理解し実践できる
 (2)医療現場のさまざまなケースを想定でき、実践できる
 (3)患者やその家族の気持ちを理解し、行動できる

学位授与【表現文化学科】

- の方針 ☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☒ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- ☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 講義概説・評価説明
- 02 医療スタッフとしてのサービスマインド
- 03 医療機関での就業マナー
- 04 接遇（来客対応）ロールプレイ
- 05 接遇（患者対応）ロールプレイ
- 06 電話対応（基本）
- 07 電話対応（患者・医師）
- 08 文書処理（一般文書）
- 09 文書処理（医療関係文書）
- 10 情報の管理
- 11 スケジュール管理
- 12 出張
- 13 慶弔・贈答

14 研究の補助業務

15 総合演習

授業時間 【事前学修】

外の学修 ロールプレイ準備を含む事前課題（毎回2時間）

【事後学修】

(1)ロールプレイの振り返り（毎回1時間）

(2)授業の復習と小テストの振り返り（毎回1時間）

評価方法 小テスト（50%）、ミニツッペーパーを含む授業への取り組み（30%）、レポート（20%）

アクティブ ラーニング グループディスカッション、実技、ケース学習

フィードバック 演習について、全体講評のフィードバックを行う。小テストについて、全体講評と解説を行う

実務経験 ○ 企業での秘書業務の経験を活かし、組織における秘書実務について実践的な授業を行う

教科書 『現代医療秘書ワークブック』、中村健壽[監修]、西文社、2019年、ISBN978-4-904540-16-9
適宜資料を配布する

参考書 『改訂 医療秘書』、医療秘書教育全国協議会編、建帛社、2017年、ISBN978-4-7679-3729-8（医療秘書
概論で使用）
『改訂 現代医療秘書一役割と実務』中村健壽[監修]、西文社、2018年、ISBN978-4-904540-34-3

備考

ナンバリング	18232	18262	科目名	診療報酬実務	
担当教員	大澤 恵美				
年度	2026		年次	☒ 1 ☒ 2	学科 ☒ 表現文化学科 ☐ こども学科
期間	☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年		単位	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	授業方法 ☐ 講義 ☒ 演習 ☐ 実技 ☐ 実習
区分	☐ 必修（卒） ☐ 選択必修（卒） ☐ 選択（卒） ☒ 選択	資格関連	☐ 必修（幼） ☐ 必修（司） ☐ 選択必修（保） ☐ 選択（上秘） ☐ 必修（保） ☐ 必修（上秘） ☐ 選択（幼） ☒ 選択（上秘メ） ☐ 必修（音療） ☐ 必修（上秘メ） ☐ 選択（保） ☐ 選択（音療） ☐ 必修（准） ☐ 選択必修（幼） ☐ 選択（司）		

授業概要 メディカル秘書の知識を身につけ、医療機関全体の組織や業務形態、社会保障制度、医療保険制度の基本と実践を学ぶことができます。

到達目標 (1) 社会保障制度、医療保険制度について理解し、説明することができます。
(2) 診療報酬に必要な基礎知識を理解し、一連の業務知識を身につけ説明することができます。

学位授与の方針 【表現文化学科】
☐ 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
☒ 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。
☒ 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
☐ 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
☐ 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
☐ 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
☐ 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション
- 02 医療機関の種類と組織について
- 03 医事課と医療事務について
- 04 医事課の窓口業務について・演習
- 05 個人情報保護法について
- 06 インフォームド・コンセントとクリニカルパスとは
- 07 医療保険制度について(基礎1)
- 08 医療保険制度について(基礎2)
- 09 公費負担医療制度について
- 10 療養担当規則について
- 11 外来業務・新患受付とは
- 12 新患受付演習
- 13 再来受付について
- 14 再来受付演習
- 15 まとめ
- 16 入退院業務(入院編)
- 17 入退院業務(退院編)

18	診療報酬算定方式
19	診療費の単価
20	診療報酬の算定と請求について(1)
21	診療報酬の算定と請求について(2)
22	カルテの読み方(患者情報)
23	カルテの読み方(病名情報、診療内容)
24	カルテの読み方(入院診療内容)
25	レセプト作成演習(1)外来
26	レセプト作成演習(2)外来
27	レセプト作成演習(3)外来
28	レセプト作成演習(1)入院
29	レセプト作成演習(2)入院
30	まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業範囲のテキストを読み、医療専門用語などについて意味を調べ理解しておいてください。（約2時間）

【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めノートにまとめてください。（約2時間）

評価方法 定期試験(40%)、小テスト・提出物(40%)、授業への取り組み(20%)

アクティブ
ラーニング

フィード
バック 提出物については、コメントを記入して返却します。

実務経験 ○ 総合病院で勤務している実務経験を活かし医療機関全体の組織や業務形態等について実践的な授業を行う。

教科書 最新医療事務入門 2024 木津正昭 医学通信社
978-4-87058-934-6

参考書 なし

備考